

Annual Report 2015

Sustainability Section

報告方針

ステークホルダーとの関わり

EHS※への取り組み

報告方針

本報告書は、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動をステークホルダーの皆様に分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に作成しました。

対象範囲

可能な限り国内外の連結決算対象のテルモグループを報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)

活動には、一部直近の内容も含まれます。

発行時期

今回発行:2015年10月

前回発行:2014年10月

次回発行:2016年10月予定

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン(GRIガイドライン第3.1版)」(標準開示項目)

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

報告書アーカイブ方法

過去の報告書は年度ごとにPDF形式にまとめ、ウェブサイトを通じて報告しています。

www.terumo.co.jp

国連グローバル・コンパクトに参加

テルモでは、国連の提唱する「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則からなる国連グローバル・コンパクトの取り組みに賛同し、2012年に署名を行いました。

「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、企業活動規範として「5つのステートメント」(1996年制定)を掲げ、企業活動を行っており、すでに世界の医療に貢献すべくグローバルでの事業展開を図っていますが、今後一層、グローバル企業の一員として責任を果たし、持続的成長を目指してまいります。



国連グローバル・コンパクト10原則

人権	原則1	人権擁護の支持と尊重
	原則2	人権侵害への非加担
労働基準	原則3	組合結成と団体交渉権の実効化
	原則4	強制労働の排除
	原則5	児童労働の実効的な排除
	原則6	雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7	環境問題の予防的アプローチ
	原則8	環境に対する責任のイニシアティブ
	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10	強要・賄賂等の腐敗防止の取り組み

ステークホルダーとの関わり

お客様とともに

お客様との関わりに対する考え方	4
適正使用に向けた情報提供	5
お客様の声に耳を傾ける	6
お客様の声を製品へ生かす	7
企業活動と医療機関等の関係の透明化	8

株主・投資家とともに 9

お取引先とともに 11

アソシエイトとともに

雇用と働きがい	13
就労環境整備	17
ダイバーシティ推進	18
人材育成	22
ワーク・ライフ・バランス	25

地域社会とともに 28

お客様との関わりに対する考え方

お客様とコミュニケーションを図りながら安全で質の高い製品やサービスの提供に取り組むことが、医療を支えるテルモの役割であり、責任であると考えています。

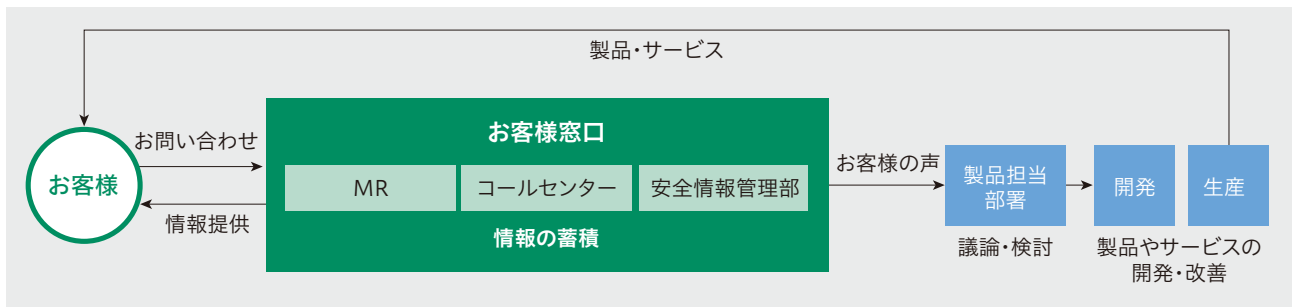
テルモのお客様との関わりに対する考え方

テルモのお客様は、医療従事者や患者さん、健康や病気に関心のある一般消費者の方々などです。

お客様のニーズを的確にとらえ、お客様にとって価値のある製品を開発することが、私たちの役割であると考えています。また、販売した製品をお客様に安心してお使いいただくための情報提供やサポートも重要な取り組みとして位置

づけています。

テルモは、こうした考えのもと、お客様とのダイレクトかつ密接なコミュニケーションを安全な医療の基礎として、製品開発とサービスの両面から人々の健康な暮らしに貢献できるよう、事業活動を遂行しています。



適正使用に向けた情報提供

医療機器や医薬品の適正使用に向けて

テルモのMR※は、医療機器や医薬品の適正使用や有効性、安全性を確保するため、医療機関に対して正確な情報収集と迅速な情報提供を行っています。また、医療者の技術習得に向けて、総合医療トレーニング施設「テルモメディカルプラネックス」において、カテーテル治療や注射、採血など多岐にわたるトレーニングをサポートしています。

※MR: Medical Representativeの略。医療機関向けの情報担当



「テルモメディカルプラネックス」でトレーニングをサポート

医療機関の研修をサポート

テルモでは、シリンジや輸液セットなどの医療機器による事故を防ぐため、添付文書に記載された注意事項のうち、重要度の高い事象を模擬的に体験して理解する「T-PAS」を各医療機関で行っています※。医療従事者の皆様より、「事故につながる使用方法を模擬体験することで、改めてリスクの重大さに気づいた」「思い込みや先輩からの口頭伝承による使用方法だけに頼ってはいけないことに気づいた」などの評価をいただいています。毎年開催されている医療の質・安全学会学術集会では、これまでに全国各地の病院からこの研修について報告がありました。

※2009年度から2014年度の間に医療施設約800施設、地域の研修会などを含めると約1,000施設で実施



医療機器の正しい使用方法を学ぶ研修をサポート

お客様の声に耳を傾ける

テルモ・コールセンターでお客様の声に対応

テルモ・コールセンターは、一般のお客様、医療機関、代理店の皆様から、年間約25万件にのぼる、電話やメールでのお問い合わせをいただいております。中でも在宅医療の患者さんからのものなど緊急性が高い分野のお問い合わせに関しては、24時間対応しています。テルモの製品は医療機関で使われるもの、家庭で使われるものなど様々ですが、一つひとつのお問い合わせにすばやく的確に回答するため、分野ごとに専門のコミュニケーターが対応しています。

こうしたコミュニケーションの維持・向上のため、コミュニケーターを対象として製品知識と対応スキルに関する定期的な研修を行うとともに、年2回の効果測定テストを実施し、お客様に満足いただけるよう努めています。また、お寄せいただいたお客様の声を社内に反映していく仕組みも強化し、製品の改善や開発に役立てています。



専門知識を持つコミュニケーターが回答

お客様の声を製品へ生かす

医療安全に関する情報を蓄積

お客様から寄せられる、製品の品質や安全性・適正使用に関する情報は、社内の安全情報管理部に蓄積されています。重要な情報は添付文書に記載するほか、ウェブサイトや業界団体を通じた情報発信、MRが医療機関を訪問して情報を提供するケースなど、スピーディかつきめ細かなコミュ

ニケーションが図られています。

また、蓄積された情報は製品の開発や改良・改善、医療安全に関する医療機関の研修サポート(T-PAS※)にも活かされています。

※T-PAS: Terumo Proactive Action for Safetyの略。テルモ独自の予測に基づいた安全対策の研修会。

使いやすい製品やサービスの提供

安全かつ簡単な操作で製品をご使用いただけるよう、テルモでは多くの製品で人間工学に基づいたデザインが採用されています。Smart Infusion System「テルフュージョン輸液ポンプ・シリンジポンプ」は、IT機能を活用したシステムで薬剤投与の安全性と使いやすさの向上に寄与しています。薬剤ライブラリ機能の搭載により、薬剤ごとに上限を設定できるなど誤投与の防止に役立ちます。また画面にはユニバーサルデザインフォント※を用いて、見やすい表示を実現しました。

※ユニバーサルデザインフォント: 使いやすさ、見やすさなど細かい部分にも配慮や工夫をした書体



医療スタッフの使いやすさを追求した
Smart Infusion System「テルフュージョンシリンジポンプ」

企業活動と医療機関等の関係の透明化

透明性に関する法規制・指針を遵守

テルモは「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、事業活動を通じ、ライフサイエンスの発展に寄与してきました。高度な医療ニーズに応える医療機器や医薬品の開発には、企業独自の研究活動だけでなく、大学等研究機関・医療機関等との連携が不可欠です。その際に対価として金銭の支払いや研究等の支援を目的とした寄付が発生する活動もあります。このため、テルモでは、医薬品医療

機器法をはじめとする関連法規はもちろん、公正競争規約等の高い倫理基準に基づく業界自主規制を遵守し、透明性を高めるように努めています。また資金提供の情報については、独自に「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」および「企業活動と患者団体との関係の透明性に関する指針」を策定し、実績を公開しています。

☐ 詳細はテルモのウェブサイトで公開しています。

<http://www.terumo.co.jp/company/compliance.html>

テルモは、企業価値の向上による安定的な株主還元と、適時適正な情報開示、株主や投資家の皆様とのコミュニケーションによる「開かれた経営」に努めています。

株主還元の基本方針

テルモは、高い利益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図っています。これは、株主の皆様利益に合うもので

あり、投資価値の増大につながるものと考えています。株主の皆様への利益配分については、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標としています。

□ 配当性向に関する詳しい情報はこちら
<http://www.terumo.co.jp/ir/stocks/kangen.html>

IR(情報開示)の基本方針

テルモは、広く社会から信頼されることを目指し、透明性・公平性・継続性を基本に、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則に則った情報の開示を

行うほか、テルモをご理解いただくために有効と思われる情報についても、タイムリーかつ積極的な情報開示に努めています。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主総会

株主との建設的な対話を充実させるという観点から、株主総会については、多くの株主の皆様にご出席いただけるよう午後に開催しています。また、株主の皆様が議案の十分な検討期間を確保することができるよう、招集通知の早期開示・発送に努めています。

株主総会では、業績報告はもちろん、テルモの製品や技術がどのように医療に貢献しているかについて分かりやすく解説しています。また、開会前には企業理念の実現に向けた取り組みをお客様とアソシエイト(社員)の声でお伝えする映像を上映しています。さらに製品の展示コーナーを設置し、医療機器を間近でご覧いただくことで、テルモへの理解を深めていただけるよう努めています。



株主総会での製品展示コーナー

株主対象の施設見学会

株主の皆様をテルモメディカルプラネックス※にご招待しています。医療従事者用トレーニングを体験いただき、テルモ製品に触れていただくことで、製品の理解だけでなく、テルモの考えや想いをご理解いただく場として、年1回実施しています。毎年多くの応募がありますが、1人でも多くの株主の皆様にご参加いただくため、2014年度は開催日を2日間としました。

※テルモメディカルプラネックス:カテーテルなどの高度な医療技術の習得や、医師・看護師のチーム連携強化など、多彩なトレーニングを行うことができる施設



株主対象見学会の様子

決算説明会

証券アナリストや機関投資家対象の決算説明会を、四半期ごとに開催しています(第1、第3四半期は電話会議)。決算説明会には、代表取締役をはじめとした関係者が出席し、業績、増減要因、今後の経営戦略についてご説明しています。また、説明会で使用した資料やスピーチをウェブサイトに掲載し、投資家の皆様に公開しています。



決算説明会

個人投資家対象説明会・イベント

個人投資家の皆様との直接対話の場として、個人投資家対象の会社説明会を開催しています。



個人投資家対象イベントの様子

テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、患者さんや医療従事者に対して、安全かつ安心に製品をお使いいただけるよう、資材・サービスのお取引先選定および調達を推進しています。

原材料調達に関するポリシー

テルモは人にやさしく環境にもやさしい企業を目指し、2009年10月、「Human×Eco開発指針」を策定しました。これにより、「次世代に害のない材料選定（環境負荷の低減）」「資源を無駄なく使用できる材料選定（省資源化による削減）」なども考慮し、新たなステージの調達を目指して

います。

このような考えを基本にお取引先と公平かつ公正な関係を維持・継続し、また、各国の薬事規制・法令ルールにのっとり原材料の調達に、継続的に取り組んでいます。

品質向上の推進

製品の品質をより高めるために、原材料のみならず品質システムに影響のあるサービス（例えば、生産設備・金型設計、工程請負など）の品質管理強化にも積極的に取り組んでいます。

とくに近年、FDA（米国食品医薬品局）による規制強化など、グローバルにサプライヤー管理の重要性が増しているため、お取引先には当社に提供する資材およびサービスの品質

が最終製品の品質に影響を与えることを十分ご理解いただいた上で、不断の品質向上や当社による定期的なお取引先への品質システム監査の実施にご協力をいただいています。

また、このような監査情報や品質情報などについて当社の工場間で共有化を図ることにより、調達活動を通じた最終製品のさらなる品質向上に努めています。

安定調達への取り組み

テルモの製品は160カ国以上へ販売されており、生産は日本で7拠点、海外では17拠点で行われています。調達に関する環境が激しく変化する中で、品質と安定供給の確保を第一に、医療現場へ高品質の製品を供給できるよう最適地購買に取り組んでいます。

2011年の東日本大震災発生時にはサプライチェーンの寸断にもかかわらず、医療に優先供給するというお取引先のご理解のもと、「医療を止めない」を合言葉に原材料を確保することができました。この経験を基にお取引先にご協力いただき、さらなる安定調達体制の確保に取り組んでいます。

お取引先へのアンケート

お取引先から信頼される調達部門を目指し、さらなる改善を図るため、毎年、お取引先へのアンケートを実施しています。

アンケート項目は、当社の取引上のビジネスマナーをはじめ、取引倫理、取引先選定方法といった取引に関わる内容で、多岐にわたっています。2011年からは、「医療を止めない」安定調達を行うため、BCP(事業継続計画)に関するアンケートも追加しました。お取引先からいただいた回答や意

見に基づき、テルモの調達部門の課題を分析した上で、工場調達部門へフィードバックし、課題を解消するとともに今後の調達活動のあり方を確認し、反映するツールとして役立てています。

また、必要に応じて、意見をいただいたお取引先と直接話し合う機会を持つなど、相互の信頼関係向上に努めています。

購買に関するコンプライアンス教育

購買に関してお取引先との相互コミュニケーションを図れるよう、調達部では、お取引先の選定から発注、請求、支払いの基本ルールを中心にアソシエイト(社員)に説明し、下請法の理解と周知を図るべく研修を実施しています。内部統制の意識付けとともに下請法遵守の維持・向上に努めています。

また、公正取引委員会・中小企業庁主催の講習会へ積極的に参加することで、下請法の啓発と推進を行っています。下請法強化月間には、下請法遵守状況のチェックとヒアリングを行い、親事業者として遵守すべきポイントの徹底と再認識を図っています。



購買に関するコンプライアンスの社内研修

雇用と働きがい

アソシエイトに関する考え方

テルモではアソシエイトを大切な資産ととらえ、人を育てる環境を整備し、一人ひとりの価値を向上させることに重きを置いています。

同時に、アソシエイトも自らの価値を高め、テルモの発展

に貢献する義務を負っています。

テルモでは、会社とアソシエイトが一体となって成長し、医療に貢献することを目指しています。

※テルモでは、共に働く仲間という意味を込めて社員を「アソシエイト」と呼んでいます。

働きがいのある職場風土の醸成

テルモでは、アソシエイトの個性を尊重し、一人ひとりの能力が最大限に発揮できる職場風土の醸成に取り組んでいます。また、成長意欲を持つ人には、自らの活躍の場を広げる

機会を提供しています。こうした様々な取り組みを基に、アソシエイト一人ひとりの力をチームの力とすることで、仕事の成果を高め、活力のある強い組織づくりを目指しています。

「患者さんの日」プロジェクト

アソシエイトが働きがいをもって仕事に向かうモチベーションの根底には、「医療を通じて社会に貢献する」の企業理念が根付いています。テルモでは、この企業理念に立ち返り、私たちの仕事がすべて、患者さんや医療のためにあるという想いを共有し、モチベーションにつなげるため、「患者さんの日」プロジェクトを運営しています。

プロジェクトでは、例えば、患者さんの声に耳を傾けるイベント「Y's TP Day (Your smile, our pleasure—Terumo Patient's Day)」を世界各国で開催し、医療の現場体験や患者さんに接する機会を通してテルモでの仕事と医療のつながりを実感する機会を設けています。

この他にも公益財団法人 日本看護協会主催の「ふれあい看護体験」、医療従事者との交流企画も取り入れた独自企画「テルモ医療現場フォーラム」など、各種イベントを企画推進しています。



Y's TP Day



泰尔茂中国 杭州工場での取り組み

泰尔茂(テルモ)杭州工場は約3,300人のアソシエイトが働く、グローバル拠点の中でも最も大きく、テルモ製品の供給拠点としても非常に大きな役割を果たしています。より多く高品質な製品を供給しより高い技能をもった人材を育成する為に、杭州工場はアソシエイトが誇りをもっていきいきと働けるよう、様々な取り組みを行っています。

例えば春には遠足を開催し、心身ともにリフレッシュする機会を設け、秋には“泰尔茂职工运动会”という全社員が参加する大運動会を開催します。大きなスタジアムに全員が一堂に会する様子は壮観で、家族も一緒に参加し、白熱しながらも一体感が醸成されました。

また、労働組合(工会)でも旅行やクラブ活動など盛んに行っていて、フラワーアレンジメントクラブ、料理部など、女性のメンバーも多数参加しています。

独身寮の住環境整備は自治会が中心となって行っています。5S活動や、勉強会、誕生日会の開催など、寮生が楽しく気持ちよく過ごせるよう自分たちで工夫をして、アットホームな寮生活をサポートしています。

こうした取り組みを継続していくことは、アソシエイト同士の絆を深め、泰尔茂杭州工場が一体となって、安全・安心をもたらすテルモの製造販売を支える基盤となると確信しています。



秋の大運動会・カーニバル(家族の日)

360° アンケート・働きがいアンケートの実施

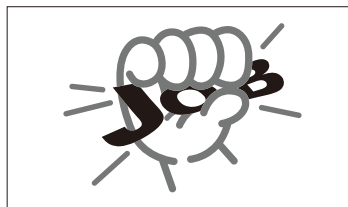
テルモでは、「自由闊達な、明るい、働きがいのある」風土を目指して、全役員・部門長を対象とした「360° アンケート」と、国内の全アソシエイトへの「働きがいアンケート」を実施し、結果は社内イントラネットでも公開しています。

各部署の風土を把握するとともに、リーダーがアソシエイト一人ひとりの意見を受け止め、より良い風土を築く「気づき」を得る機会として活用されています。

ACE公募

テルモでは、様々な部門・職種からの人材募集に立候補したアソシエイトが、自分の力で仕事を勝ち取る「ACE公募(社内の公募制度)」を1997年から行っています。年齢や性別に関係なく、意欲のあるアソシエイトが新たなステージへと挑戦し、経験を積み、成長する機会につながる制度で、これまでの応募者は600名以上、合格者は140名以上にのびります。

特に、海外駐在を前提としたグローバル候補生の公募では、これまでに33名が審査に合格し、すでに半数以上が実際に海外に赴任しています。



“自ら仕事を掴む”イメージのACE公募ロゴ

現場の誇り賞

テルモの成長を支えているのは、際立って目に見える業績を残すアソシエイトだけではありません。「日々地道な努力を続けるアソシエイトにも光を当てる」という考えのもと、テルモでは「現場の誇り賞」の表彰を毎年実施しています。

表彰は、①緑の下の力持ちとして地道に努力を続け、会社・組織に貢献している ②「この人にしかできない」と周

りに思わせるような匠の技を持っている ③長年培ったノウハウを通じ後輩育成に尽力している などの観点から選ばれます。2014年度は、現場で推薦を受けた約50名の中から、熟練の技で製品の生産を支えてきたアソシエイトや、安全衛生と人材教育に貢献したアソシエイトなど、4名が授賞されました。

労使対話

テルモはアソシエイトと共に成長するに当たり、相互の信頼に基づく労働組合との対話を、とても重要なことと認識しています。

労働組合からの意見はアソシエイトの“声”として真摯に受け止め、双方がよりよい課題解決に向けた取り組みを行っています。

経営トップとの直接対話の場としての座談会や「UC

(Union and Company)協議会」を設け、双方で議論を尽くし、企業・組合員の成長・発展を目指して進んでいくパートナーとしてお互いの関係を築いています。

また、それ以外にも労働組合によるアンケートの実施とフィードバックを通して、全社で自由闊達に意見交換ができる取り組みを行っています。

社員データ

連結・地域別アソシエイト数

(単位:人)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
日本	5,048	5,011	5,070	5,195
欧州	1,837	1,892	1,814	1,840
米州	5,177	5,656	5,936	6,345
アジア他	6,050	6,334	6,443	6,554
合計	18,112	18,893	19,263	19,934

アソシエイトの構成(テルモ株式会社 単体)

(単位:人)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
国内・男性	4,123	4,065	4,072	4,088
国内・女性	664	656	639	656
海外 アソシエイト	144	57	53	55
合計	4,931	4,778	4,764	4,799

就労環境整備

基本方針

テルモグループでは、会社の大切な資産であるアソシエイトが能力を最大限に発揮できる環境を目指し、誰もが安心して働ける職場づくりに努めています。

コンプライアンス遵守とハラスメントを防止

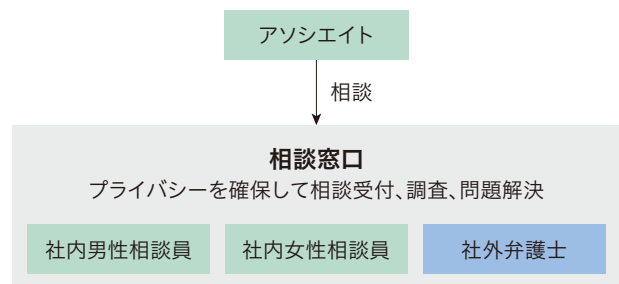
テルモグループでは、「テルモグループ行動規準 (SAKURARULE)」を制定し、日々の業務の中で、アソシエイト一人ひとりがいかなる行動をとるべきかを定めています。

良き企業市民の一員として、アソシエイトが法令遵守はもとより倫理的な行動を取ることは社会に対する大きな責任でもあります。そのためテルモでは年に1回、各職場単位でこの行動規準についての勉強会を開催して理解を深め、コンプライアンス遵守の徹底と、ハラスメントの防止に向けた取り組みを行っています。

それに加え、マネジメントを担う立場である管理職に対しては、日々の業務で生かせるような身近な事例を取り入れた研修を定期的に行っており、より一層の理解浸透に努めています。

また、ハラスメントを受けた場合や倫理上の懸念があった場合に、すぐに相談できる窓口を設置しています。独立した社長直轄の相談窓口として、男女の社内相談員に加え、社外弁護士にも相談できる体制を整えており、相談者のプライバシーを保護し、相談することによって不利益が生じないよう配慮を徹底して、問題解決にあたっています。

※就労環境整備、安全衛生活動についての詳細は、P.40「健康・安全への取り組み」もご参照ください。



ダイバーシティ推進

基本方針:人権を尊重し、多様性を生かす

テルモグループは、個の尊重と異文化の相互理解に努め、人種、国籍、性別、宗教、身体の障害等に基づく差別もまたその他の人権侵害も行いません。また、多様なアソシエイトの活躍が、これからの成長エンジンであると考えて、様々な価値観を受容し、お互いの「多様性」を認め合うことで、異

なる発想・知恵が自由闊達に混ざり合い、新しい価値を創造する企業を目指しています。

現在ではすべてのアソシエイトの意識をさらに高めるべく、ダイバーシティ推進室が設立され、これまで以上に、様々な観点から全社的な取り組みを進めていきます。

TOPICS

ダイバーシティのロゴを作成しました

ロゴのテーマは「オーバーラップ」です。様々な色合いが重なり合った大小の文字は、多様な個性を持ったアソシエイトが輝き、異なる価値を認め合いながらいきいきと活躍する様子を表しています。



女性の活躍支援

テルモでは、多様な価値観を認め合い、企業の成長につなげていく第一歩として、経営トップが、女性の活躍を推進していくことをコミットしました。これに基づき、女性がさらに活躍できる環境・風土・意識を整えていくために、男女を問わず自分自身の価値観やこれからのキャリアについて考

える機会を提供し、多様なアソシエイトが相互に認め合い、働きやすい職場で活躍するための風土づくりを推進しています。

現在、「メンター制」「復職支援セミナー」など、様々な取り組みを実施しています。

メンター制

職場や世代の異なる女性リーダーがペアを組み、様々な経験や考え方を共有しながらお互いの視野を広げ、成長につなげるための制度です。自分自身の意識やスキルを高め、組織を率いるリーダーとして活躍する人が増えることで、新しい視点、新しい価値の創造に貢献できると考えています。



2014年度「メンター制」研修参加者

復職支援セミナー

テルモでも、男女問わず、育児や介護をしながら活躍するアソシエイトは増えています。2013年度から年に1回、出産・育児で休業を取得している女性アソシエイトとその上司を対象として復職支援セミナーを開催しています。2014年度は34名が先輩社員による体験談を共有し、仕事と育児・介護とを両立しながら成長するための心構えや周囲との協力体制について話し合いました。今後も、多様な働き方やキャリアについて上司や職場の仲間と一緒に考え、対話が生まれる機会を提供していきます。



2014年度「復職支援セミナー」

働きやすい職場で活躍するための風土づくり

2014年度には、すべての女性アソシエイト(約650名)を対象として、働きやすさを阻害するものとは何かを考える研修を実施しました。「自分たちの職場で気まずい場面をどのように防ぐか」という視点で対策を考えることで、自分も相手も大切にす対等なコミュニケーションのあり方や、スマートな意思表示の方法を学びました。

男女を問わず、自分自身の価値観やこれからのキャリアを考える機会を提供することで、多様なアソシエイトが相互に認め合い、働きやすい職場で活躍できるような風土づくりを推進しています。



コミュニケーションの研修

管理職を対象とする集合研修

2013年度より、女性管理職を対象とした集合研修を開催しています。2014年度は男性管理職の希望者も交えて、部下の指導に役立つ面談スキルや、多様な個性を持つメンバーの能力を引き出すヒントを学ぶダイバーシティ・マネジメント研修を実施し、47名が参加しました。こうした研修は全国各地の様々な事業所で活躍する女性リーダーが一堂に会する場にもなっており、異なるロールモデルとの出会いや新たなネットワーク作りにつながっています。

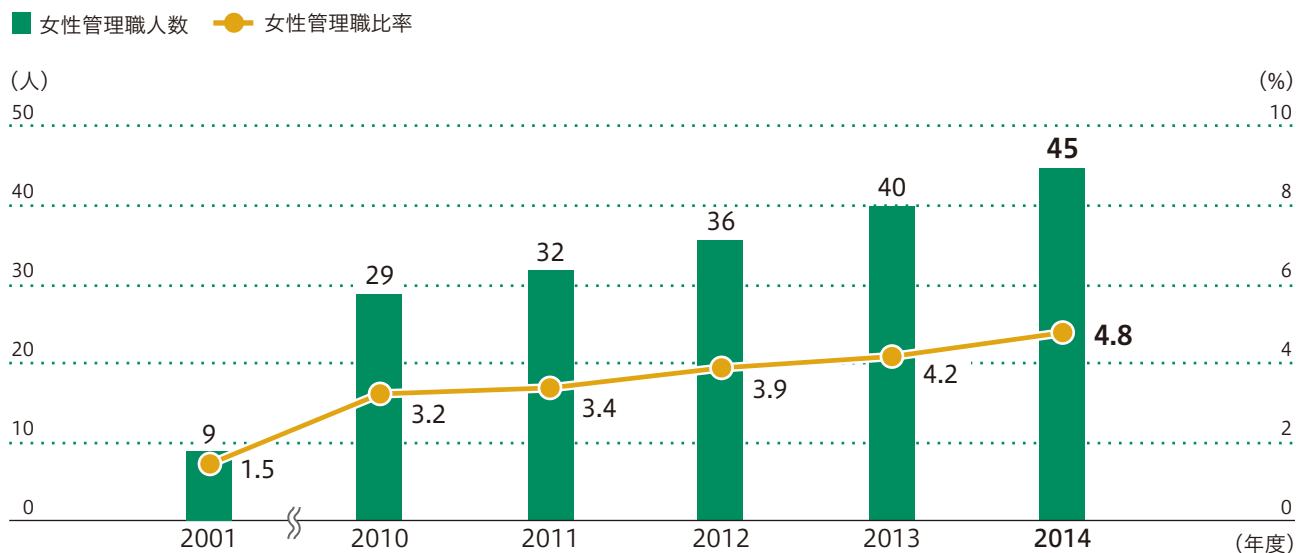


2014年度 ダイバーシティ・マネジメント研修

テルモの女性管理職は徐々に増加し、2015年3月末現在、45人(4.8%)となっています。今後も成長意欲の高い女

性アソシエイトが、さらに活躍できるような取り組みを進めていきます。

女性管理職人数および比率(テルモ株式会社 国内単体・グループ会社への日本人駐在員および出向社員)



海外との交わり

日本国内のアソシエイトが海外のアソシエイトと共同でビジネスに取り組む場面が増えていることから、2014年度は、外国籍アソシエイトと日ごろ直面している課題やキャリアについての考え方についてざっくばらんにディスカッションする場を設けました。参加者はこの交流を通して、文化や考え方の違い、コミュニケーション上必要となるスキルなどを学び、グローバル環境に適した仕事の進め方について理解を深めました。



様々な国籍のアソシエイトが交流

再雇用制度「TES:テルモ・エキスパート・システム」

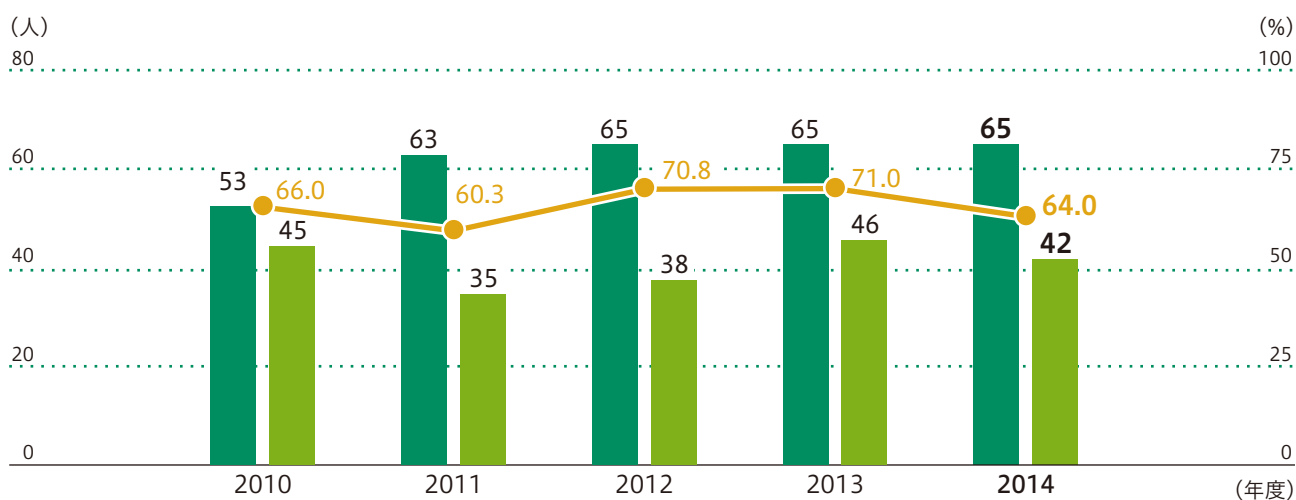
テルモでは、アソシエイトが定年後も優れたスキル・ノウハウを発揮するための「定年退職者再雇用制度(TES:テルモ・エキスパート・システム)」を1998年度から導入しており、現在も多くの方々が、長年培ってきた専門力を発揮して

活躍を続けています。

その活躍は専門分野のみならず、若手アソシエイトへの指導や助言など、様々な場面でベテランの豊かな経験が会社を支える力となっています。

TES制度利用者数および移行率

■ 定年退職者数 ■ TES制度利用者数 ● TES移行率



障がい者の雇用

テルモでは、一人ひとりの能力や適性に応じた活躍の場を提供することで、自立した社会生活を送ることができるように、障がい者の雇用促進に努めています。

障がい者雇用率は、2015年3月末現在で2.02%と法定雇用率(2.00%)を満たしています。これからも一人ひとりの能力を最大限に発揮できる機会を拡大していきます。

人材育成

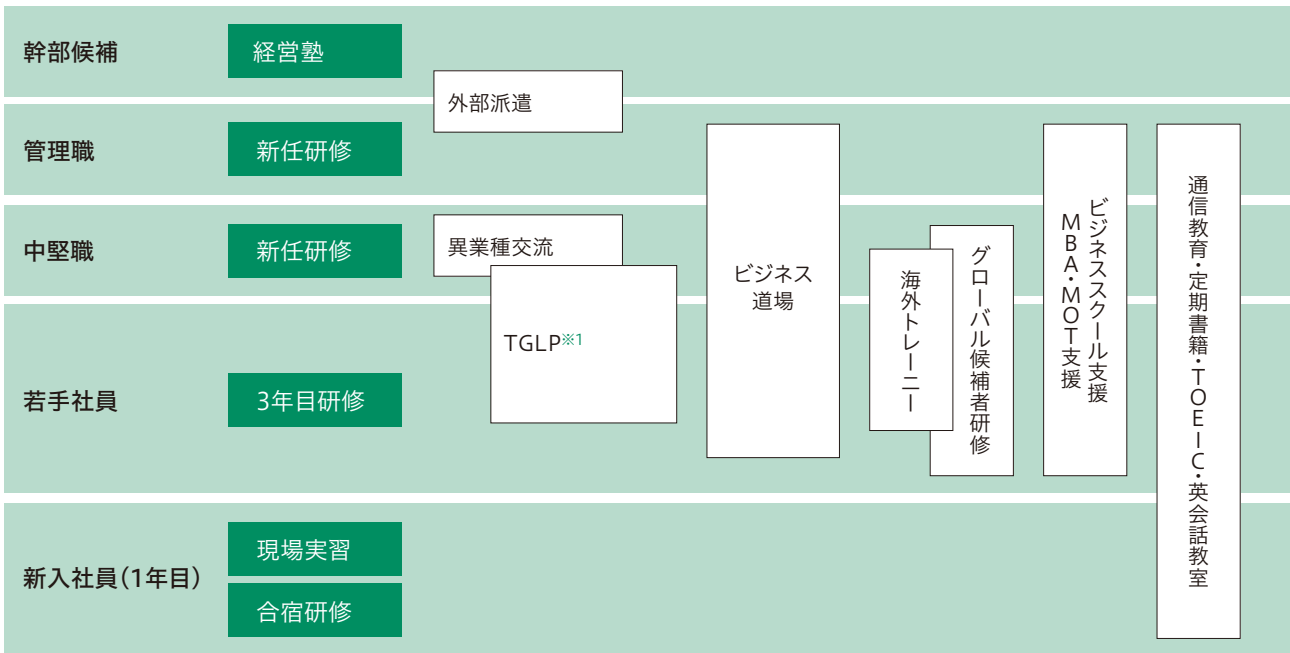
基本方針

テルモでは、アソシエイトの価値の総和が、企業の真の価値であると考えています。

人材の育成は、仕事の実践を通じたOJT(On the Job Training)を前提とし、それを補完する役割として各種の研修が構成されています。

また、「最大の学習効果は、自ら興味を持ち、学ぶ必要性を感じたときに発揮される」という考え方から、テルモでは多くの研修が自ら立候補して臨む自発的なスタイルとなっています。

テルモ研修体系 概略図



※Terumo Global Leadership Program

ものづくり人材育成

テルモでは、ベテランの技能・経験とものづくりの心を若手に伝承する仕組みづくりを進めています。階層別の体系的な教育カリキュラムや研修環境整備、講師育成に取り組み、毎年、新入社員や海外アソシエイトも対象に研修を実施しています。

2014年4月には、長年現場で活躍してきたTES(定年退職者再雇用者)の社員を中心メンバーとした『生産人材育成センター』を設立しました。生産の各分野(生産系・技術系・品質系・管理系)で、テルモのものづくりを支える人材の育成をグローバルで加速させていきます。



ベトナム人技術者の研修

カンパニー経営を推進する人材育成

これからのカンパニー経営を推進するにあたり、志を高く持ちリーダーシップを発揮できる人材、グローバルにビジネスを展開できる人材の育成に取り組んでいます。

カンパニーごとの戦略に基づく多様な育成プログラム

各カンパニーが策定したそれぞれの成長戦略に基づき、事業リーダーから若手まで幅広い対象者に、役割と職種に応じた多様な育成プログラムを実施しています。テーマは戦略会計・財務、プロジェクトマネジメント、マーケティング、イノベーション、専門技術、営業スキルなど、プログラムにより様々です。研修終了後は継続して実践フォローを行い、研修効果を高める仕組みを取り入れています。



課題の実例をひいて対策を考える実践的な研修

Terumo Global Leadership Program (TGLP)

「TGLP」は、グローバル経営を牽引する実践力のあるリーダーの育成を目的としたプログラムで、意欲ある20～30代の若手を対象としています。多くの応募者の中から選考を経て選抜された約20名が、5カ月間にわたるプログラムで経営課題の本質を見極めるためのスキルを磨き、実践に結びつく課題解決の提案をグループでまとめ、経営陣に提案します。

厳しいプログラムですが、将来の経営を担う志を持つ人材育成に貢献するものと考えています。



社長を囲んでのTGLP 修了式

MBA 等取得支援制度

これからの世界戦略を担うグローバル人材育成のため、国内外において自主的にMBAなどの資格取得を目指す成長意欲の高い人材を支援する制度を設けています。

対象者には、就学に必要な期間の休職を可能とし、過去に失効した有給休暇の利用もできるようにしています。また会社が認めた場合には、学費や休職期間の生活費を会社から無利息で借りることができる仕組みや、さらに一定の条件を満たした場合は、入学金や授業料の一部を会社が支援する仕組みも導入しています。

知識やスキルの習得だけでなく、世界各国の優秀な仲間と交流し、異文化の中で切磋琢磨するという貴重な経験を重視しています。



世界各国の優秀な仲間とMBA修了式

ワーク・ライフ・バランス

基本方針

テルモでは、誰もがいきいきと働き、能力を発揮することができるよう、アソシエイトの多様なワーク・ライフ・バランスの向上に向けて、働き方の「時間と場所の融通性拡大」を目指しています。柔軟な働き方を実現させる勤務制度や育

児や介護などのライフイベントに応じた制度は、次世代育成支援対策推進法に基づき、アソシエイトの仕事と家庭生活の両立を支援するものとして、必要に応じて随時拡充していきます。

育児・介護支援制度

2015年3月現在、育児・介護と仕事の両立を支援する主な制度は以下のとおりです。

育児・介護支援制度

制度		内容※1
育児	育児休業	子が3歳に達するまでを上限に休業取得が可能 育児休業開始期には、失効有給休暇を最大30日利用可能
	育児短時間勤務	子が「小学校卒業」までの間、1日最大2時間の就業時間短縮が可能
	育児時差勤務	子が「小学校卒業」までの間、1日最大1時間の就業時間の繰上げ・繰下げが可能
介護※2	介護休業	要介護者1人につき、通算で最大3年まで休業取得が可能 介護休業開始期には、失効有給休暇を最大30日利用可能
	介護短時間勤務	通算で最大3年間、1日最大2時間の就業時間短縮が可能
	介護時差勤務	通算で最大3年間、1日最大1時間の就業時間繰上げ・繰下げが可能
その他	時間単位有休	取得事由を問わず、1時間単位で柔軟に休暇取得が可能

※1 掲載内容は、一部抜粋です。

※2 介護休業・介護短時間勤務・介護時差勤務は合計で通算3年間を最長としています。

産休および育休の取得者数(テルモ株式会社 国内単体)

(単位:人)

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
産休取得者数		21	22	19	22	24	39
育休取得者数	女性	20	22	28	27	26	30
	男性	1	8	7	9	14	36

TOPICS

2014年度認定事業主として次世代認定マーク「くるみん」を取得

テルモは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣が認定する「くるみん認定」を取得しました。この認定は、ダイバーシティを積極的に推進している企業の多くが取得しています。

認定を受けた企業の証である「くるみんマーク」は、育児支援のための環境整備を行動計画として策定し、社員の仕事と子育ての両立を図っている企業に対して、厚生労働省から製品や広告への付与が許されるものです。デザインには、赤ちゃんが包まれている「おくるみ」と会社ぐるみ・職場ぐるみで育成に取り組み育んでいこう、という意味が込められています。

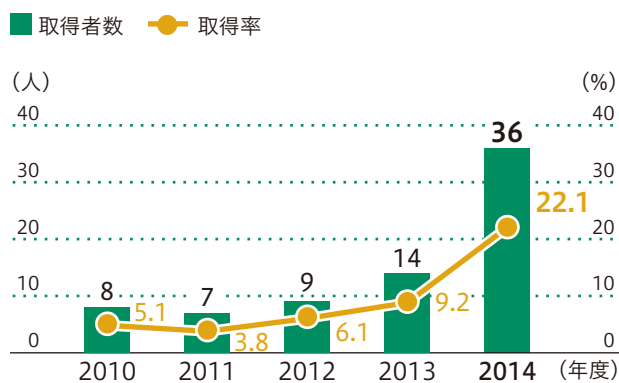
テルモでは、アソシエイトがいきいきと仕事をし、その能力を発揮できる働きやすい環境を作るため、今後も様々な取り組みを進めてまいります。



男性の育児参加を促進

最近では育児休業を取得する男性アソシエイトも増えてきました。子どもの誕生は、自らの働き方を考える絶好の機会となります。子どもが生まれた男性アソシエイトとその上司宛にメール連絡をして育児休業の取得を推奨したり、こうした制度を利用しているアソシエイトの体験談を社内イントラネットに掲載することで、制度を周知させ、育児に参加しやすい雰囲気づくりも行っています。

男性の育児休業取得者推移



在宅勤務制度

テルモでは、アソシエイトが育児・介護などの理由で出社困難な日は、自宅での勤務も選択肢の1つとして検討できる「在宅勤務制度」を導入し、専用のパソコンを貸与しています。2015年4月には制度の利用上限日数を拡充し、子どもが学校感染症による出席停止となった場合に、これまでの

利用制限4日／月に加えて、必要な日数を在宅で勤務できるようにしました。

育児や介護のために通常の勤務が難しい状況にあっても、アソシエイトの持つスキルやノウハウが最大限に発揮できるよう、働き方の選択肢の拡大を今後も進めていきます。

キャリアリターン制度

テルモでは、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤により退職したアソシエイトに再雇用の道を開き、再びテルモで活躍することを支援する「キャリアリターン制度」を導入し、働き方の選択肢を広げています。

一旦キャリアを中断せざるを得なかったアソシエイトのスキル・ノウハウを、復職が可能となった時点で再び発揮してもらうことで、多様な経験とそこから生まれた価値観を生かせるようにしています。

ノー残業dayの実施・有給休暇の取得推進

テルモでは、仕事の効率化を推進するため、日々の就業時間管理の徹底とともにノー残業dayの設定を行っています。また、働く時は働き、休む時は休む、メリハリのある職場環境

づくりの一環として、会社休日の設定と有給休暇の取得を推進しています。

病気の治療や予防に役立つ情報を提供

情報ウェブサイト「からだにやさしい不妊治療」を開設

2015年6月に卵管鏡下卵管形成術(FT)による不妊治療の情報サイト「からだにやさしい不妊治療」を開設しました。

女性の不妊において卵管を因子とする割合は約3割とされています。特に卵管の通りが悪くなっている卵管通過障害は、自然妊娠の機会が失われてしまうため、体外受精などの方法をとらざるを得ませんでした。

FTは、カテーテルを挿入して卵管の詰まりを上げ、より自然な妊娠を可能にする治療法です。メスなどで切開せずに行うため、身体の負担が少なく、多くは、日帰り治療も可能です。国内で年間約2千例実施されています。

ウェブサイトでは、FTについて正しく分かりやすい情報を提供し、不妊に悩む方々をサポートすることを目的としています。治療方法の解説に加えて、国内でFTを実施している施設リストも公開しています。

テルモでは、この他にも広く社会一般の方々に向けて、病気の予防や日々の健康管理に役立てていただくために、数々の情報ウェブサイトを発信してきました。くも膜下出血やその原因の一つである脳動脈瘤に関する情報サイト「ストップ!くも膜下出血」、「体温」を軸とした健康情報サイト「体温研究所」、「基礎体温でカラダと話そう」、また、高齢者の転倒予防に役立つ「転倒予防教室」など各種の情報ウェブサイトを開設しています。



ウェブサイト「からだにやさしい不妊治療」



ウェブサイト「ストップ!くも膜下出血」

新型インフルエンザ等への対応

2013年4月「新型インフルエンザ等対策特別措置法」の施行に伴い、テルモは指定公共機関に指定され、法の第9条に基づき業務計画を策定いたしました。

新型インフルエンザ等が流行した際には、この計画に基

づき、関係機関と協力、連携しながら、ワクチン接種用の注射器や針などの供給を継続し、テルモの社会的責任を果たしてまいります。

医療の発展への貢献

テルモ科学技術振興財団

当財団は1987年に設立され、2012年4月1日に新公益財団法人として再出発しました。当財団の目的は、研究助成等の公益事業により生命科学分野の技術振興を通じて、人類の医療および健康の向上に寄与することです。財団には3つのミッションがあります。

一つは助成事業で、生命科学に関わる研究や学会などの集会に対して助成しています。2014年度は特定研究助成として、研究テーマ「光干渉断層画像法とNBIの融合による早期消化管癌の深達度診断」など3件、一般研究助成として27件、国際交流助成(学会助成)として29件の助成を行いました。2015年3月には研究助成者が一堂に会する中、贈呈式を行いました。これまで計985件、助成額は14.3億円になります。また、今年度の新たな取り組みとして、「医療・健康向上助成」をスタートし、医療・健康などの向上を目的として公益事業を行う国内外の4団体(海外1件含む)に対して助成を行いました。

二つ目は褒賞事業で、設立25周年を記念して創設した

「テルモ国際賞」の第2回授賞式を2014年7月に開催しました。これはバイオマテリアル研究を通じて再生医療分野の発展に寄与した研究者を表彰するもので、受賞者には米国ユタ大学のSung Wan Kim教授が選ばれました。また、財団賞の表彰を贈呈式において行い、記念講演会も開催しました。

三つ目は普及啓発事業で、2009年に教育啓発活動の一つとして開設した中高生向け生命科学情報ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」の運営を6年に亘って継続しています。生命科学分野の最先端研究と研究者について次世代を担う若い皆さんにわかりやすく情報を提供しています。

また2014年8月には、北陸、甲信越、東海地区14校の高校生31名を東京女子医科大学-早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設に招待して、最新の再生医療、シミュレーターなどの実習を行うサイエンスカフェを開催し、参加者には大変好評でした。2015年度も同様の事業を計画しています。



研究開発助成・財団賞選考委員会の様子



サイエンスカフェ・手術支援ロボット操作実習の様子

地域社会への貢献

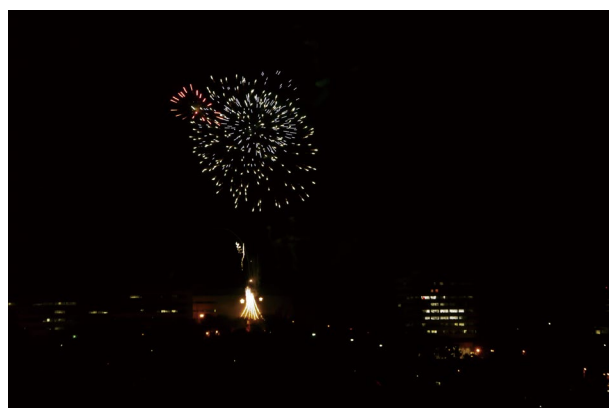
ホスピスへクリスマスの贈りもの

テルモ湘南センターでは、クリスマスの時期にアソシエイトが同センターの外壁にイルミネーションの飾り付けを行っています。また、クリスマスには地域とホスピスの皆様に打上げ花火を、そしてホスピスではテルモ男声合唱団から歌声のプレゼントもお届けしました。この企画は、同セン

ターの向かいにあるホスピスに入院されている患者さんやそのご家族、地域住民の方々にクリスマスを楽しんでいただきたいとの思いから、1997年より毎年実施しているものです。2014年はトナカイなどの様々なイルミネーションを演出致しました。



歌声を届けるテルモ男声合唱団



イルミネーションと花火

各地域での活動

テルモでは、地域への身近な社会貢献の一環として各事業拠点で様々な活動を行っています。

1. 本社隣接の公道・公園の清掃(毎週実施)
2. 多摩川河川敷のごみ拾い活動(毎年春と秋に参加)
3. 湘南センター周辺のクリーンアップ活動
4. 富士宮工場周辺のクリーンアップ活動
5. 愛鷹工場、MEセンター周辺のクリーンアップ活動
6. 営業支店周辺のクリーンアップ活動

※2014年度実績

日中友好交流への取り組み

テルモでは「日本企業に触れ、日本を感じよう」をテーマに、中国大学生「走近日企・感受日本」訪日プロジェクトへの協力とホームステイの受け入れを実施しています。

中国大学生「走近日企・感受日本」訪日事業は、日本側の中国日本商会(北京市)と中国日本友好協会が主催するプロジェクトで、2005年から毎年春と秋に2回実施し、北京地区の毎回異なる大学約6校から40名程の大学生を選抜し、日本に招聘しています。期間中、中国日本商会などの関係企業(本社・工場・研究所等)の訪問をはじめ、日本の農村を含む社会産業事情、文化などを幅広く視察し、日本の大学生との交流や、日本人家庭へのホームステイ(1泊2日)を実施しています。

テルモでは、訪日大学生を対象にテルモメディカルプラネックスの見学を実施し、医療研修プログラムを通じて医療機器や医療の重要性についての理解を深めるための場を設けました。

また、テルモアソシエイトがホームステイを受け入れ、初めて日本を訪問した中国の将来を担う大学生に日本の生活習慣や文化などに直接触れてもらうことで、その素晴らしさや温かさが感じられるような機会を設けています。

この活動は中国大学生の日本訪問・交流を通じ、日中間の相互理解を深め、将来にわたる友好関係と相互理解の増進につながるものと考えております。



プラネックス見学中的様子



大学生の歓送会の様子

ネパール 地震被害への寄付

当社は、2015年4月にネパールで発生した地震の被災地域に向けて、日本赤十字社に200万円を寄付しました。

このほか、アジアのテルモグループ企業より、血液バッグ、輸血セットなどの医療機器を寄贈しました。



日本赤十字社への寄贈の様子

献血活動

テルモでは、各事業所や支店など、それぞれの職場で献血を行っています。2014年度も全国の事業所・支店で協力がありました。テルモ製品のひとつである献血用バッグの生産だけでなく、実際の献血活動を通じた貢献も継続していきます。



社内での献血活動の様子

テルモBCTによる非営利団体への寄付

2014年度、テルモBCTの慈善寄付委員会は非営利団体を通じて、100,000ドルを上回る寄付金を地域に還元しました。同委員会はテルモBCTのスローガンである「Unlock the Potential of Blood」に密接に同調させながら、大半の寄付を行っています。こうした団体としては、聖アンソニーメディカルセンター、Cesar Chavez Blood Drive

Challenge、Foundation of American Blood Centers、National Blood Foundation、Bonfils Blood Center Foundationなどが挙げられます。アソシエイトが個人的に支援する非営利団体に向けて行った寄付については、テルモBCTは2014年度に5,000ドルのマッチング寄付も行っています。

TOPICS

テルモBCT、Leukemia & Lymphoma Society (LLS、白血病/リンパ腫ソサエティ)の支援に向け188,000ドルを募金

毎年、テルモBCTはLeukemia & Lymphoma Society Rocky Mountain Chapterが開催するイベント「Light The Night」を支援しています。2014年に開催された10回のイベントを通じて、テルモBCTのアソシエイトによるLLSへの寄付の総額は188,000ドルとなり、年頭に設定した125,000ドルの目標をはるかに上回りました。白血病、リンパ腫、ホジキン病、骨髄腫の治療のほか、患者やその家族のクオリティ・オブ・ライフの改善を使命とするLLSの支援に向け、テルモBCTは毎年のキャンペーンを通じて2007年からこれまでに600,000ドルを超える寄付を行っています。



イベント「Light The Night」の様子

テルモBCT、女子生徒を対象にSTEM(理系)分野での仕事を紹介するワークショップを実施

テルモBCTのアソシエイトは、米国コロラド州デンバー首都圏の6年生と7年生の女子生徒を対象に、科学、技術、工学、数学(STEM)の分野での仕事について紹介するイベント「Girls Exploring Science, Technology, Engineering and Math (GESTEM)」に6年連続でボランティアとして参加し、ワークショップを実施しました。このイベントではSTEM分野に従事する専門家と生徒との交流が行われたほか、実務でのSTEMについて紹介が行われました。ボランティアだけで運営され、無料で参加できるGESTEMは、テルモBCTによる5,000ドルの寄付など、賛助者からの寄付によって開催が実現しています。



イベント「Girls Exploring Science, Technology, Engineering and Math (GESTEM)」の様子

EHS※への取り組み

EHSマネジメント	35
健康・安全への取り組み	40
環境・安全に配慮した製品	42
気候変動への取り組み	48
資源の有効活用	50
化学物質の適正管理	52
生物多様性保全の取り組み	56
マテリアルフロー	58
2014年度環境データ	59
EHS目標と実績	61

※EHS: Environment、Health、Safetyの略

EHS(環境・健康・安全)に関わる取り組みは、社会的責任でもあり企業が持続的に成長するための重要な課題の1つです。グループ全体でEHS活動を推進し、良き企業市民を目指しています。

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」の制定

2012年10月に「環境基本方針」を改訂し、事業活動に伴う環境負荷の低減や生物多様性の保全、働く人々の安全・健康に関する基本的な姿勢を定めた「テルモ グローバル

環境・安全衛生方針」を制定しました。この方針はテルモグループ全体に適用され、すべての活動の基本となります。

テルモ グローバル環境・安全衛生方針

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、事業活動に伴う環境負荷の低減と、働く人々の安全・健康の確保に努め、よき企業市民をめざします。

■ EHS(環境・安全衛生)マネジメントシステムに基づいて活動を展開し、次の自主目標を定め、継続的改善に努めます。

- 事業活動が環境・安全衛生に与える影響・リスクの削減
- 環境と安全に配慮した商品開発
- エネルギーや資源の有効活用と適正管理

■ 各国の環境・安全衛生に関する法律、条例、協定等を遵守します。

■ 社会や地域の一員として環境保全活動を推進し、生物多様性の保全に努めます。

■ あらゆる事業活動において、働く人々の安全と健康の確保に取組み、安全で快適な労働環境の形成に努めます。

■ 環境汚染、労働災害などの事故の防止に努めると共に、緊急時には迅速かつ適切に対応し、被害の拡大防止に努めます。

■ 教育訓練を計画的かつ継続的に実施し、環境・安全衛生に対する意識の向上に努めます。

■ 環境・安全衛生活動に関する情報を積極的に開示し、社会や地域とのコミュニケーションに努めます。

制定 2012年10月

EHS(環境・安全衛生)マネジメントシステムの整備

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」(EHS方針)の策定に伴い、環境と健康・安全を統合したテルモグループEHSマネジメントシステムの構築・整備を進めています。EHS方針、目標、活動計画などは、サステナビリティ経営の重要課題の一つとして「環境安全委員会」において審議・決定され、各事業所のEHS活動に反映されます。「EHS専門部会」は、個々の重要テーマごとに選出された専門家により構成され、「環境安全委員会」に助言を行う諮問機関としての

役割を担っています。また「EHS監査委員会」は、各事業所に対して内部監査を行い、システムの有効性や運用状況、関連法規の遵守状況を確認しています。

テルモは、環境負荷の低減や働く人々の安全・健康の確保に関する取り組みを企業の社会的責任ととらえ、持続的に成長するための重要な課題と考えています。

今後もテルモグループEHSマネジメントシステムの継続的な改善に取り組みます。

EHSマネジメントシステム 全社推進組織



TOPICS

甲府工場でISO14001/OHSAS18001認証取得

2014年度は富士宮工場(静岡県富士宮市)に続き、甲府工場(山梨県・昭和町)で環境マネジメントシステムISO14001と労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001の認証を取得しました。また、テルモグループでは、テルモヨーロッパ社ハースロード工場(ベルギー)やテルモベンポール社(インド)の血液バッグ工場、すでに環境と安全衛生を統合したマネジメントシステムを運用し認証を取得しています。



認証審査の様子

EHS内部監査の実施

法令違反や環境問題、労働災害の未然防止など現在から将来における環境や安全・健康に関わるリスクを低減させることを目的に、テルモ環境安全委員会基準に基づきテルモグループのEHS内部監査を実施しています。

監査の中で抽出された不適合案件については、「是正予防処置要求/回答書」を発行し、是正処置および再発防止に向けた予防処置の完了まで確認を行います。また観察事項に関しては、書面によるフォローアップ調査と翌年度の監査で対応内容の確認を行います。



EHS監査

■ 監査項目

1. EHSマネジメントシステムの運用状況
2. EHS関連の法令・協定要求事項
3. EHS関連パフォーマンス

■ グループEHS内部監査結果

- EHS関連法令・協定の遵守について、重大な不適合はありませんでした。全体で3件の軽微な不適合が指摘され、是正処置が実施されたことを確認しました。
- EHSリスクについては各事業所で特定されており、緊急事態の訓練等が行われていることを確認しました。
- 環境・安全衛生上の自主目標への取り組みについては、各事業所で計画通り進捗していることを確認しました。

2014年度環境外部監査

廃棄物処理委託先の監査

テルモから排出した汚泥やプラスチック類の廃棄物が、最後まで適正に処理されているかを確認するため、チェックリストを作成し、計画的に廃棄物の収集運搬委託先・処理委託先を監査しています。2014年度は30カ所の委託先について監査を行い、いずれも問題ないことを確認しました。



廃棄物処理委託先の監査

外部立入検査

2014年度における環境関連の外部(行政当局)立入検査では、工場や研究開発センターに対し管轄の県・市による水質汚濁防止法、大気汚染防止法、廃棄物処理法および省エネ法に基づく検査と採水検査が実施されました。いずれも指導事項はありませんでした。



外部立入調査

EHS事故・緊急事態への対応

EHS上の事故・災害の防止および緩和を図るため、各事業所で緊急事態への対応手順を定め、定期的な教育訓練と有効性の確認を行うことで、リスク低減に努めています。



緊急事態訓練の様子

EHS教育・表彰制度

アソシエイト向けEHS教育

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」やテルモの一員として行うべきEHS活動への理解を深めるため、新入社員研修をはじめ、営業拠点や工場などそれぞれの業務内容の特性に合わせた教育プログラムを整備し実施しています。また、環境や安全・健康に関する情報の配信や、家族を含めて参加できる社内キャンペーンの開催などにより、EHSに対する意識を高めています。



教育訓練の様子

EHS表彰制度 —Terumo Human×Eco Award—

環境・健康・安全に貢献した活動をグループ全体で評価し、EHS活動の活性化・レベルアップを図る目的で、EHS表彰制度「Terumo Human×Eco Award」を2012年度に創設しました。2014年度および2015年度は以下の取り組みを表彰し、テルモグループ全体でグッドプラクティス事例の共有を行いました。



Terumo Human×Eco Award

表彰案件一覧(2014年度)

件名	受賞者
EHS-MS構築と蒸気供給システム変更によるエネルギー供給効率向上 - ISO14001/OHSAS18001認証取得 - CO ₂ 排出量およびエネルギーコストの削減	富士宮工場 EHSプライド・製造管理部保全課
半固形EJ出荷箱の環境負荷低減 - 段ボール使用量およびコストの削減 - 製品輸送効率の向上および廃棄物量の削減	甲府医薬品工場 半固形EJ出荷箱オートル箱化PJ
Excellence in EHS Performance - Reduction of the occupational accident - Energy and resource-saving activity - Certification for ISO14001 and OHSAS18001	Terumo Penpol Ltd. Blood Bag Factory

表彰案件一覧(2015年度)

件名	受賞者
健康経営の推進による社員の健康増進 - 禁煙及び生活習慣病対策の推進 - 健康診断の受診促進と二次検査受診率向上	人事部 健康経営実行プロジェクト 愛鷹工場 安全衛生委員会 健康増進部会 テルモ健康保険組合
廃棄物の分別推進による資源の有効活用 - 有価売却率の向上 - 廃棄物処理費用の削減	甲府東工場 有価物推進チーム
Excellence in EHS Performance - HCFC-225 Change-Out - Reduction in Methanol emissions - Machine safety activity	Terumo Elkton, Maryland Campus, EHS Team

労働安全衛生管理体制

テルモでは、アソシエイトの安全を守るため、工場、研究開発本部、営業拠点、本社の各事業所で、労働安全衛生管理体制を整え、委員会を開催しています。労働災害を未然に防ぎ、万一発生した場合でも、被害を最小限に抑えるよう、職場環境の安全衛生を確保する取り組みを続けています。

労働災害ゼロを目指し、5S活動をはじめとして、危険箇所

の点検や未然に危険を防ぐための取り組みを行い、委員会などへ報告することで情報を共有しています。

2014年度の3日以上休業労働災害件数は4件(2013年度:0件)でした。今後も、死亡・重大労働災害ゼロと労働災害件数の削減を目指していきます。

休業労働災害件数・度数率※1・強度率※2

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
休業労働災害件数	2	2	3	0	4
度数率(%)	0.66	0.97	1.68	0.00	0.45
強度率(%)	0	0	0.01	0	0.02

※1 度数率:100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの

※2 強度率:1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表すもの

健康管理

医療に貢献する企業の一員としてアソシエイトの健康を守るとともに、アソシエイト一人ひとりが高い健康意識を持つよう、テルモでは、経営トップがコミットして、健康経営[※]を推進し、様々な取り組みを行っています。

具体的には、予防・早期発見の観点から検診機会の提供や、セミナー・イベントの開催、費用補助などのサポートを、

会社・健康保険組合・産業保険スタッフと協力して行っています。また、個別のアソシエイトを対象とする健康管理指導のほか、家族にも案内を出すなど、アソシエイトとその家族の両方にアプローチしています。

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。テルモはNPO法人健康経営研究会の賛助会員として主旨に賛同しています。

予防		早期発見		治療支援	
運動		検診		治療補助等	
スポーツクラブ 法人契約	ウォーキング キャンペーン	レディース健診	人間ドック補助	歯科(口腔ケア)補助	禁煙
ワクチン費用補助		脳ドック補助	乳がんMRI補助	健康相談窓口	
インフルエンザ	子宮頸がん	二次検査			
リフレッシュ					
宿泊旅行補助					

特に力を入れている取り組みは下記の通りです。

ウォーキング	ウェブサイト上の画面で歩いた歩数を入力し、目標を達成できた場合は景品が贈られるキャンペーンを行っています。
乳がんMRI補助	従来より乳がん検診としてエコー検査やマンモグラフィ検査を行ってきましたが、2015年度からは、日本ではまだ珍しい乳がんのMRI検査 [※] を対象とする補助制度を開始しました。また、乳がんに関する冊子をアソシエイトとその配偶者に配布するほか、社内セミナーも開催するなど、啓発活動にも取り組んでいます。 [※] 感度(病変の発見率)が高く、乳腺濃度が高い人や、家族に病歴があるようなハイリスク女性のがん早期発見に有効といわれています。
口腔ケア補助	様々な生活習慣病を引き起こす恐れのある、歯科疾患への関心を高めるべく、従来の歯科検診に加えて、口腔ケアへの補助を行っています。
禁煙外来補助	禁煙したくてもなかなか止められない場合には、禁煙外来の費用補助を受けることができ、1回で成功できなかった場合も再チャレンジを奨励し、翌年以降も補助対象になります。 また、事業所内でも産業医による社内禁煙外来を実施したり、セミナーや座談会を開催して禁煙のきっかけづくりにも力を入れています。
メンタルヘルスフォロー	産業保健スタッフによる個別面談の実施や、社外での相談窓口の設置により、相談しやすい体制を整えています。また、新入社員・一般社員にはストレスケアの研修、リーダー職の社員にはメンバーのケアやマネジメント方法の研修など、対象に応じた様々な研修を実施しています。
健康経営社内サイトの開設	テルモの健康経営について、社内のイントラネットに専用のウェブサイトを開設しています。サイトではテルモの健康経営への姿勢や経営トップのメッセージ、健康増進に関わるサポート内容のまとめ、社員の健康法などを紹介して、健康への意識を高めてもらうようアプローチしています。

こうした取り組みが評価され、2014年度、テルモは経済産業省の「健康経営銘柄」^{※1}に選定されました。また、テルモ愛鷹工場では、上記のほかにも社員食堂でヘルシーメ

ニューを提供するなど独自の取り組みを実施しており、この内容が認められて静岡県の「健康づくり活動に関する知事褒賞」^{※2}を受賞しました。

※1 経済産業省が東京証券取引所と合同で選定する銘柄で、従業員などの健康管理に、経営的な視点から戦略的に取り組んでいる企業を紹介するもの。東京証券取引所の上場会社から、業種区分ごとに1社ずつが毎年選定される。

※2 職場での健康づくり推進を目的とする静岡県独自の褒賞制度。健康増進に積極的に取り組み、今後も活動が期待できる事業所などを表彰する。



「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の実現を目指し、医療従事者や患者さん、そして地球環境にもやさしい製品の開発に取り組んでいます。

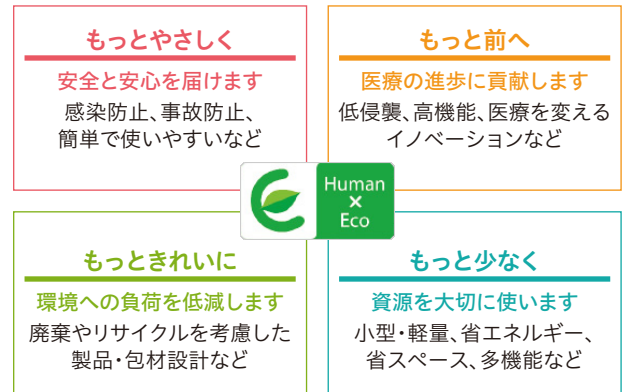
Human×Eco®(ヒューマン・バイ・エコ)開発指針

「人(Human)にやさしい医療」とは、患者さんの身体への負担を少なくする、感染を防ぐ、医療従事者が使いやすいものを提供することなどを通じて、医療の安全性・効率性を高めていくことです。

このことは同時に「環境(Eco)にやさしい医療」にもつながります。ひとたび感染や医療事故が起これば、その対応に本来は必要のない医療資源が使われることになります。安全で効率性の高い製品を開発することは、医療現場におけるEcoへの貢献でもあると、私たちは考えています。

テルモでは、人にも環境にもやさしい製品開発を進めるための独自の基準「Human×Eco開発指針」(4つの原則と24項目の指針)を策定し、製品の開発にこの基準を適用しています。特に優れた商品には、自社認定マーク(「Human×Eco」マーク)の表示をすることで、お客様にも分かりやすくお伝えしています。

Human×Eco(ヒューマン・バイ・エコ)開発指針



使い勝手／安全性向上

抗がん薬曝露リスクを考慮 — 閉鎖式調製・投与器具

抗がん薬には、制がん作用がある反面、細胞毒性、変異原性あるいは発がん性を有するものも多く、薬剤被曝による取り扱ひ者の健康上の危険性が報告されています。閉鎖式調製・投与器具(ケモセーフ)を使用することで、薬剤の調剤から投与、廃棄まで一貫して閉鎖的な環境で抗がん剤を取り扱うことが可能です。また、抗がん薬の調製時に針を使用する必要がないため、針刺し事故防止など医療従事者の安全性と抗がん薬曝露リスクの低減を考慮したシステムです。



閉鎖式抗がん剤投与システム

輸液ライン管理の安全・効率化に貢献 — 閉鎖式輸液システム

輸液ラインの接続部(混注部)をクローズドな状態で保つことにより、外気からの細菌侵入による感染防止に寄与します。また混注部は、薬液滞留をなくするための構造を採用し、薬剤の微量投与にも対応。注射器や点滴器具を接続する際に専用のアダプターは不要で、簡単かつ迅速に薬液を注入できます。物品管理もしやすく、操作間違いによるリスク低減など輸液ライン管理の安全と効率化に貢献します。



閉鎖式輸液システム

静脈注射の安全性・使い勝手向上 — 安全機構付き静脈留置針

静脈留置針は、長時間にわたる点滴などで使用される注射針です。医療現場では、金属針を引き抜く際の医療者の針刺し損傷や、血液の飛散・漏れが課題となっています。金属針を引き抜くだけで針全体を自動でカバーする独自の機構を持つとともに、血液の飛散・漏れを防止する機構を備えることで、針刺しや血液の飛散・暴露による医療現場での感染リスクの低減・使い勝手の向上に寄与します。



静脈留置針

患者さんのユーザビリティ向上 — 音声ガイド機能付き血糖測定器

大きく見やすい液晶画面に加え、測定結果やエラーメッセージなど必要な情報を音声でもお知らせする機能を搭載しました。また、各ボタンには手で触って区別が付きやすいよう凸点をつけてあり、視力の低下や手指の感覚が鈍るなど血糖測定器の操作を不自由に感じる糖尿病患者さんがより使いやすいように工夫をしています。



血糖測定器

省資源／医療経済性

低侵襲・医療経済性への貢献 — 心臓用カテーテルイントロデューサーキット

心臓カテーテル治療の中でも、手首から治療する方法は足の付け根からのカテーテル挿入と比べ、術後の出血などの合併症が少なく低侵襲治療が可能になります。シースをより薄く微細成型することで、外径を細くした新しいコンセプトのイントロデューサーキットを開発しました。血管の細い患者さんへの治療選択肢の拡大、術後合併症に伴う医療費・医療資源の削減が期待されます。



心臓用カテーテルイントロデューサーキット

幅広いタイプの治療に対応 — PTCA用バルーンカテーテル※

素材やバルーンのたたみ方などを改良し、幅広いタイプの治療に対応できるPTCA用バルーンカテーテルを開発しました。患者さんにこれまでより少ない本数で治療することが可能となり、患者さんの負担軽減とともに省資源化・医療経済性に貢献しています。

※PTCA用バルーンカテーテル:カテーテルの先端に装備したバルーン(風船)を膨らませて血管を押し広げ、狭まった血液の通路を拡張するために使用する医療機器。



PTCA用バルーンカテーテル

一体化 — 水分調整の手間を省く、とろみ付き濃厚流動食

水分や粘度の調整に使用していた栄養ボトルが不要となり、ボトル洗浄の手間や廃棄物を削減することが可能となりました。また、水と「とろみ栄養」を一つにすることで、医療従事者や介護者の負担を軽減しました。

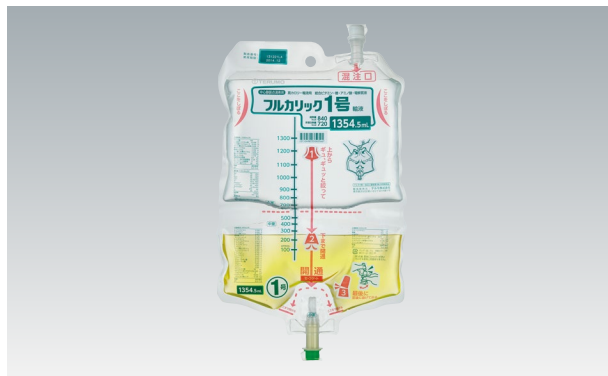


「Human×Eco」認定商品
とろみ付き濃厚流動食

一体化 — 複数の薬剤をワンバッグに

使用前に薬剤の混注が必要な輸液剤をワンバッグ化することで、混合作業の簡便化、混注作業に起因する異物混入や細菌汚染、針刺しリスクの低減が期待されます。また、混注時に使用する医療材料が不要になり、資源の削減とともに医療現場の廃棄物削減につながります。2012年度からは、複数容器の隔壁開通忘れを防止する未開通投与防止機構を付加したタイプも発売しています。

※フルカリックは田辺三菱製薬株式会社の登録商標です。



輸液バッグ

一体化 — プレフィルドシリンジ

あらかじめ注射器に薬剤を充填したプレフィルドシリンジでは、安ぷル剤やバイアル瓶からの薬剤の吸引・溶解などの作業が不要になり、医療現場での廃棄物削減に貢献します。また、作業性の向上はもちろんのこと、菌や異物の混入のリスクを低減し、薬剤の取り違えや針刺し事故の防止にも寄与します。プラスチック製なのでガラス製に比べ割れにくく、重量や分別などの点で廃棄性にも優れています。



プレフィルドシリンジ製剤

一体化 — 動脈フィルター内蔵型人工肺

人工肺と動脈フィルターを一体化したことで、血液回路の部品点数および原材料を削減しました。



動脈フィルター内蔵型人工肺

軽量・小型化

シリンジ(注射筒)を、容量・機能性はそのままに、軽量・小型化しました。廃棄時の重量で25%減を実現しています。小型化することで輸送時の環境負荷やゴミの排出量を削減。在宅医療で使用する腹膜透析液バッグでは、家庭での廃棄物削減を考慮して40%減の軽量化を実現しています。



シリンジ

腹膜透析液バッグ

柔軟性・携帯性 — 世界100か国に広がる血液バッグ

輸血の安全性向上を目指し、1969年に国産初の血液バッグを発売しました。採血チューブと容器を一体化したプラスチック製のバッグは、ガラス製のものに比べて柔軟性・携帯性に優れ、輸送時のコスト、廃棄容量ともに削減できます。



血液バッグ

パッケージ化と廃棄重量・容量削減

手術に必要な商品一式をパッケージ化したソリューションパック。包装資材の重複や管理の無駄をなくしました。また、常にパッケージの方法や形状などを工夫し、トレイの形状変更で廃棄時のかさを小さくする(当社従来品比約53%削減)など、さらなる廃棄重量・容量の削減を実現しています。



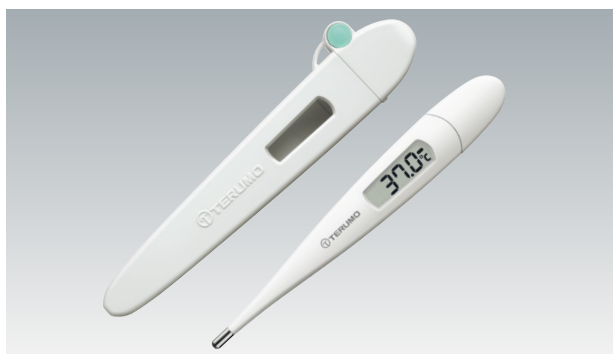
「Human×Eco」認定商品
血管造影キット

有害物質対策

脱水銀の先駆けとして

2012年10月、国連の水銀に関する水俣条約外交会議が開催され「水銀に関する水俣条約」の採択/署名が行われました。条約が発効されると2020年までに水銀含有製品の製造・輸出入が原則禁止になります。1984年にテルモは水銀

体温計の生産を終了。以来、約30年電子体温計や電子血圧計など、より安全で環境にやさしい製品を発売し、水銀ゼロに積極的に取り組んでいます。



電子体温計

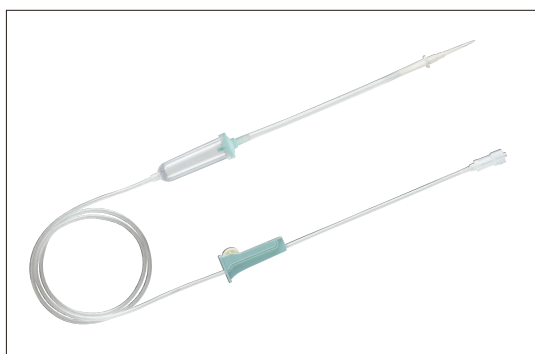


電子血圧計

脱塩ビとDEHPフリーを推進

焼却時に有害ガスが発生するとされる塩化ビニル樹脂 (PVC) については、包装への不使用を進めています。また、生体への影響が懸念されている可塑剤DEHPについては、

他の可塑剤に代替した商品を供給(代替可能な場合)しています。



輸液セット



輸液剤バッグ



人工心肺回路

地球温暖化による気候変動は、異常気象による災害の増加や生態系への影響、感染症などによる人への健康被害など深刻な影響を及ぼすと予測されています。テルモでは、気候変動への取り組みとして事業活動に伴うCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

CO₂排出量の削減 (Scope1、2※1)

テルモグループ全体でCO₂排出量の削減に取り組んでいます。生産事業所・研究所からのCO₂排出量が全体の99%を占めていることを受けて、EHS専門部会のエネルギー部会が中心となって温暖化防止施策を企画・推進し、各事業所の省エネルギー活動に反映しています。2014年度は主にターボ冷凍機、貫流ボイラなどの高効率機器の導入、日常点検によるエア・蒸気漏れ対策に取り組ましました。また、オフィスでは適切な空調温度設定、不要な照明の消灯、エコキャンペーンの実施など全員参加の省エネルギー活動を推進しました。こうした活動の結果、2014年度の連結売上高当たりのCO₂排出量(グローバル※2)は2005年度比68%となり、前年度比2%改善しました。

※1 Scope: CO₂排出量算定の国際基準「GHGプロトコル『Scope3(スコープスリー)』」による、CO₂排出形態の分類。Scope1は企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガスを、Scope2は企業が発電所などから購入したエネルギーが作られた際に排出された温室効果ガスを、Scope3はこれら以外で事業活動に起因して排出される温室効果ガスをさす。

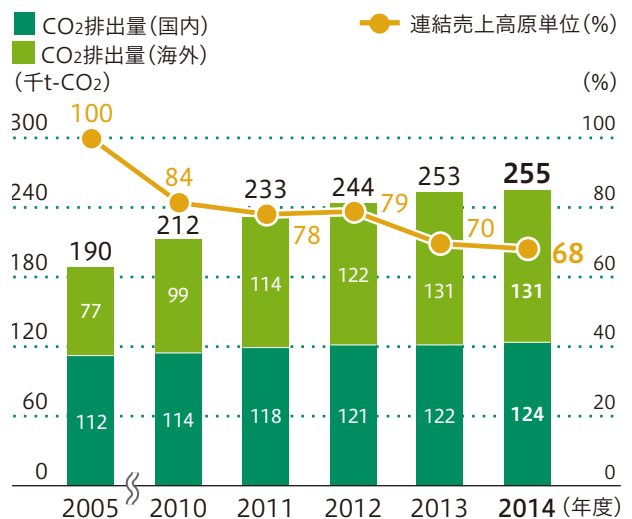
※2 グローバル: テルモグループ(国内事業所、海外生産事業所)

中長期目標(グローバル)

2025年度末までに、連結売上高あたりのCO₂排出量を2005年度比50%削減

※対象: テルモグループ(国内事業所、海外生産事業所)

CO₂排出量と連結売上高原単位の推移



※国内の電力CO₂換算係数は2005年度の各供給先の実績で固定。海外の電力CO₂換算係数は、IEA CO₂ Emissions From Fuel Combustion 2012より2005年の地域別の排出係数で固定しています。

CO₂排出量 (Scope1・Scope2内訳) 2014年度

(単位:t-CO₂)

	Scope1	Scope2	合計
国内	38,978	85,312	124,291
海外	38,133	93,044	131,177
グローバル	77,111	178,356	255,468

再生可能エネルギー活用

太陽光発電使用量 (MWh)	259
バイオマスガス使用量 (kg)	2,025

TOPICS

エネルギー部会の取り組み

EHS専門部会のエネルギー部会は、エネルギー管理の専門家を中心に構成され、テルモの省エネルギー・地球温暖化防止施策の企画・推進を担っています。2014年度は省エネ・温暖化防止技術検討会を開催し、社内の先進事例を共有するとともに、中長期の省エネ施策について議論しました。また、大規模CO₂排出事業所を中心に、外部専門家による省エネ診断を行い、診断結果を事業所間で共有しました。今後も継続的に施策を検討・推進し、さらなるCO₂排出量削減の実現に取り組んでいきます。



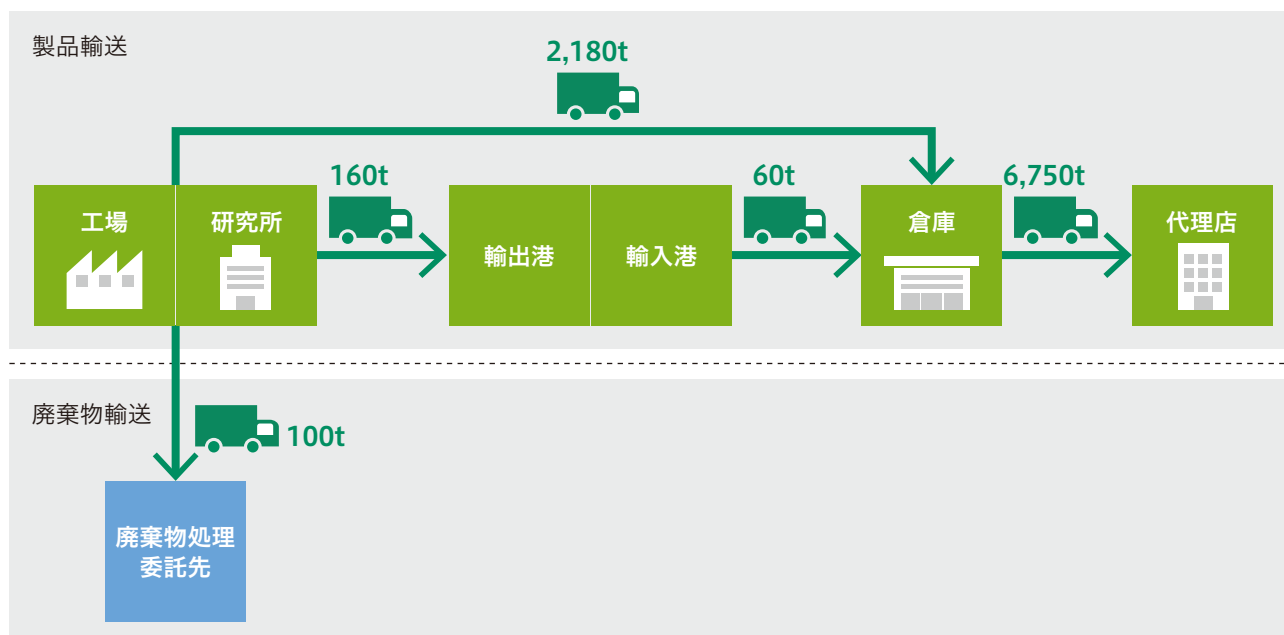
外部専門家による省エネ診断

物流のCO₂排出量削減 (Scope3)

テルモでは、トラック輸送から環境負荷の少ない海上輸送への切り替えや、輸送時の積載効率向上など、物流における環境負荷低減を推進しています。

2014年度は、輸入品の受け入れ倉庫を増やし、輸入港から倉庫までのトラック輸送距離を短縮することで、CO₂排出量を削減しました。

CO₂排出量実績 (Scope3)



※Scope3については現在把握している範囲で公表しています。

テルモの事業活動は、地球の限りある資源を活用することで成り立っています。
 廃棄物の削減や資材の有効利用、リサイクルの向上など資源の有効利用に取り組んでいます。

廃棄物の最終処分量削減

テルモでは、廃棄物の発生抑制や資源の再資源化を推進し、廃棄物の最終処分量(埋立量)を削減する取り組みを行っています。

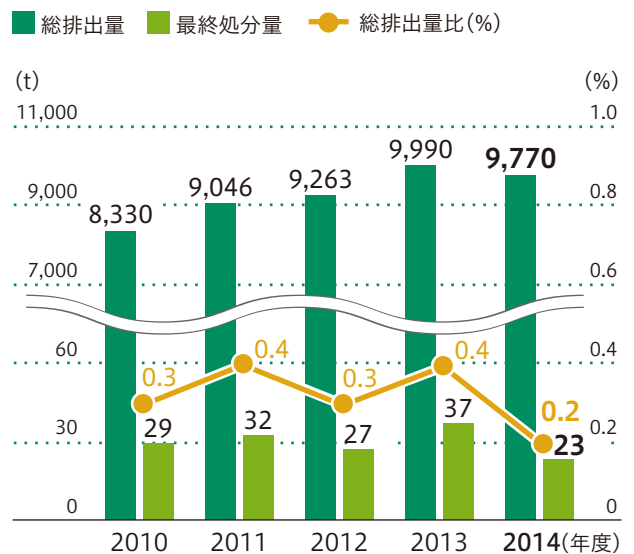
目標

国内事業所[※]の廃棄物最終処分量を、廃棄物等総排出量比0.5%未満

※対象:テルモグループ(国内事業所)

2014年度の廃棄物最終処分量は廃棄物等総排出量の0.24%となり目標を達成しました。

廃棄物最終処分量の推移



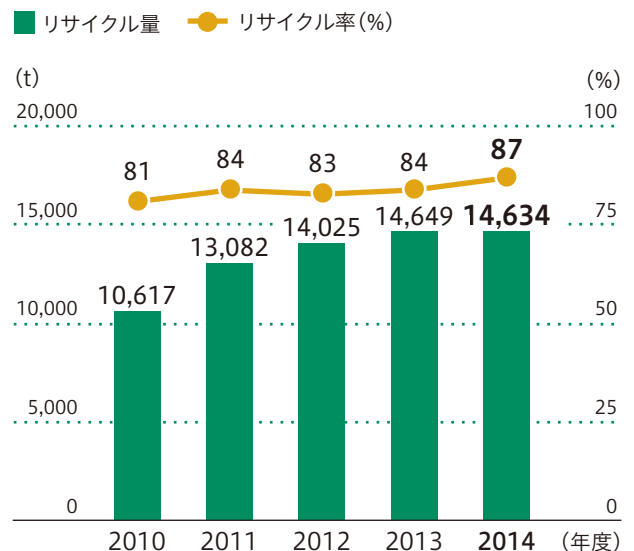
リサイクル促進に向けた取り組み

EHS専門部会の事業廃棄物部会を通して事業所間で情報を共有し、アソシエイト全員がリサイクルに努めています。製品の安全性の観点から、廃棄物の社内での再生利用(マテリアルリサイクル)は困難ですが、製造工程やオフィスでの事業活動で発生する様々な廃棄物を分別し、リサイクル会社の協力により、床タイルなどの他のプラスチック製品や、RPF(固形燃料)、有機肥料などにリサイクルしています。2014年度の国内リサイクル率は95%、グローバルで87%に達しています。

※国内:テルモグループ

※グローバル:テルモグループ(国内事業所、海外生産事業所)

リサイクル量とリサイクル率の推移(グローバル[※])



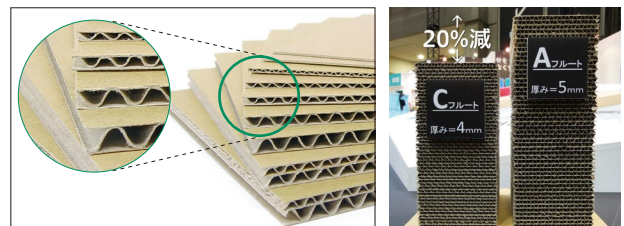
包装材料削減に向けた取り組み

テルモでは、資源の有効利用、お客様の使い勝手向上を目的に、容器包装の小型・軽量化や薄肉化、形状の見直しなど、包装材料削減に向けた取り組みを行っています。

輸送箱の紙使用量削減

輸液製剤(500ml品)の輸送箱について、段ボールの厚みを薄くすることにより、段ボール使用量を従来比約7%削減し、年間約42tの紙使用量を削減しました。また厚みを抑えることにより、お客様の廃棄スペースの低減(段ボール箱積上げ高:20%低減)にも貢献します。

段ボール箱での紙使用量削減



小型充電式電池のリサイクルに対する取り組み

資源有効利用促進法に基づき、小型充電式電池のリサイクルを実施しています。テルモの製品から出た使用済み小型充電式電池は、小型充電式電池のリサイクルを推進している一般社団法人JBRCにより、回収・リサイクルされています。また、商品廃棄の際に分別しやすいように、リサイクルマークを表示するなどの工夫をしています。小型シール鉛蓄電池についても、メンテナンスによる電池交換の際に回収・リサイクルしています。

2014年度リサイクル実績

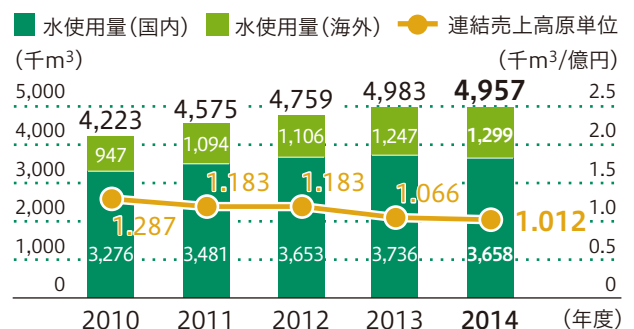
(単位:Kg)

ニカド電池	ニッケル水素電池	リチウムイオン電池	小型シール鉛蓄電池
4,405	1,274	276	1,168

水資源の有効利用

テルモでは、水資源有効利用のために冷却水の循環利用など、水資源使用の最適化を行っています。今後も引き続き生産量の増加を見込んでいますが、水資源の有効利用に取り組んでいきます。

水資源利用量の推移



※国内:テルモグループ

※海外:生産事業所

「テルモ グローバル環境・安全衛生方針」に基づいて自主目標を定め、化学物質の使用・排出・廃棄について把握・管理しています。EHS専門部会の化学物質部会を中心に、化学物質の取扱量・排出量の把握・削減に努めています。

化学物質排出量の削減

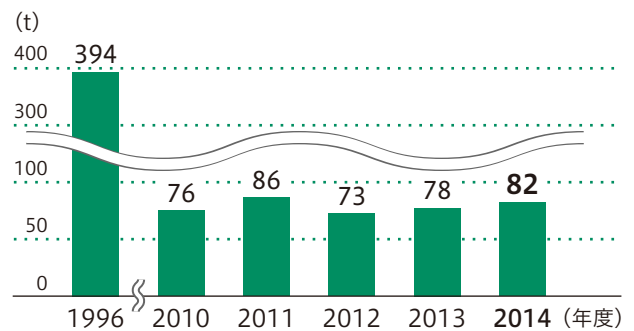
ジクロロメタン排出量削減に向けた取り組み

テルモでは、ジクロロメタンの排出量削減のため甲府工場に回収装置を設置し、排出量を年間100t未満にするという自主目標を設定して排出量削減に取り組んでいます。

目標
ジクロロメタンの排出量100t未満

※対象:テルモ単体国内事業所

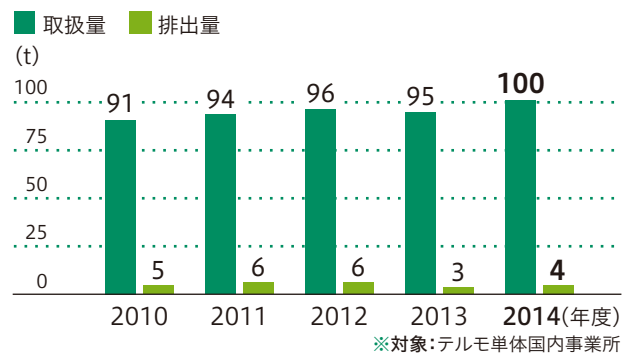
ジクロロメタンの排出量推移



エチレンオキシド排出量削減に向けた取り組み

エチレンオキシドは、医療機器の滅菌に広く使用されています。テルモでは、外部環境へのエチレンオキシド排出量削減のため、触媒酸化式排ガス処理装置を愛鷹工場、富士宮工場、湘南センターに、燃焼方式の処理装置を甲府工場に設置済みです。また、エチレンオキシド滅菌の代替も進めています。

エチレンオキシドの排出量推移

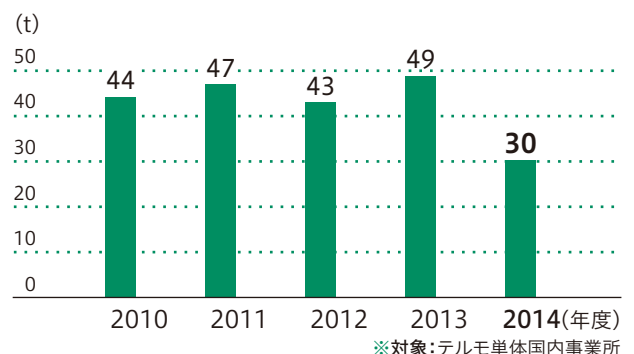


※対象:テルモ単体国内事業所

HCFC-225の代替

オゾン層を破壊する物質の使用を規制するモントリオール議定書を背景に、日本国内では2020年からHCFC-225の生産が禁止になります。テルモでは、製品環境安全部会が、各事業所で使用しているHCFC-225について、使用工程のリストアップ、代替品の情報共有、各事業所での検討結果の共有を行い、代替を検討しています。

HCFC-225の排出量推移



※対象:テルモ単体国内事業所

GHSへの取り組み

テルモでは化学物質を取り扱うすべての人に、GHS※1に基づいた化学物質の危険有害性に関する情報を提供しています。この情報により、化学物質を適切に取り扱うことで、人の健康障害予防や環境の保護に寄与しています。また、PRTR※2対象物質などの月単位での把握と発生源からの排出量削減に最優先で取り組んでいます。

※1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals(化学品の分類及び表示に関する世界調和システム)の略。

※2 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出移動量届出制度)の略。

PRTR法対象物質の管理

(単位:t)

化学物質名	量	富士宮工場	愛鷹工場	甲府工場	研究開発センター	合計
エチレンオキシド(EOG)	取扱量	11.6	65.3	22.7	0.1	99.7
	排出量	0.4	2.0	1.2	0.0	3.6
	移動量	0	0	0	0	0
1・2ジクロロエタン	取扱量	0	2.6	0.0	0.0	2.6
	排出量	0	2.1	0	0	2.1
	移動量	0	0.5	0.0	0.0	0.5
HCFC-141b	取扱量	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8
	排出量	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2
	移動量	0	0	0	0	0
HCFC-225	取扱量	7.5	29.4	6.8	0.0	43.7
	排出量	3.8	22.7	3.2	0.0	29.7
	移動量	0.9	1.2	0.0	0.0	2.1
ジクロロメタン	取扱量	0.1	9.0	193.6	0.1	202.8
	排出量	0.1	5.6	76.6	0.0	82.3
	移動量	0.0	3.4	0.0	0.1	3.5
トルエン	取扱量	0.6	0.0	9.1	6.0	15.7
	排出量	0.6	0.0	6.2	0.0	6.8
	移動量	0.0	0.0	2.9	3.1	6.0
フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	取扱量	564.2	3.6	121.7	0.0	689.5
	排出量	0	0	0	0	0
	移動量	0	0	2.0	0.0	2.0
フッ化水素	取扱量	0	20.0	0.2	0.0	20.2
	排出量	0	0.8	0	0	0.8
	移動量	0	0	0	0	0
1-プロモプロパン	取扱量	0	0	1.3	0.0	1.3
	排出量	0	0	1	0	1
	移動量	0	0	0.3	0.0	0.3
ノルマルヘキサン	取扱量	0	7.2	0.0	0.0	7.2
	排出量	0	3.6	0.0	0.0	3.6
	移動量	0	3.6	0.0	0.0	3.6
N,N-ジメチルホルムアミド	取扱量	0	4.5	0.0	0.0	4.5
	排出量	0	2.9	0.0	0.0	2.9
	移動量	0	1.6	0.0	0.0	1.6

グリーン調達

各国の製品化学物質法規制だけでなく、医療機器の特性としてのアレルギー対策や内分泌かく乱作用の懸念による調査など、お客様や行政当局からの様々な要請に対処するため、将来を見据えた含有物質の把握・管理体制を構築すべく、関連部署と協力して取り組んでいます。

各国化学物質規制(REACHなど)への対応

テルモでは、急速に厳格化が進む各国化学物質規制に対し、関連部署と連携して将来を見据えた体制の構築に取り組んでいます。

法規制情報の収集

政府公報や業界活動などを通じて得た環境規制情報が環境推進室に集約されます。また、化学物質規制が最も先行している欧州をはじめとする各国の現地法人からは、定期

的に情報が提供されます。情報を一元管理することで、化学物質規制の対象物質調査や規制対応に漏れがないよう努めています。

設計段階での確認・調達先調査

製品設計の段階で法規制対象物質をあらかじめ設計担当者に提示し、設計段階で環境汚染物質などの使用を極力避けるよう配慮しています。設計担当者への意識付けを行うツールとして「Human×Eco 開発指針」を利用しています。

部が実施しています。調査は製品品質上必要な調査項目を含め、様々な目的での原材料調査を一括して行います。調査の回答が得られると、調達部にてデータベース化を行い、必要ときに速やかにデータを活用できる状態にしています。

同時に、調達資材についての規制物質の含有調査を調達

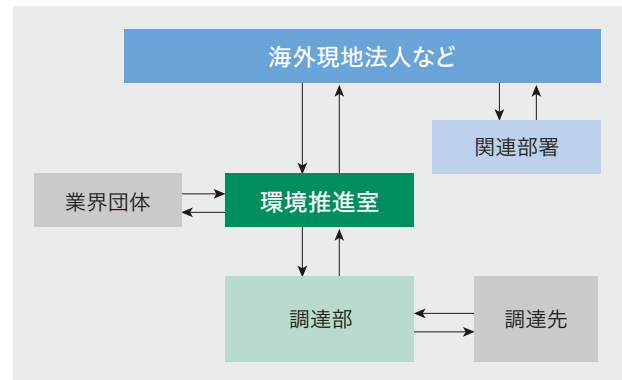
Human×Ecoチェックシート(部分拡大図)

理念	指針	インプット採択 (採択は「○」記入)	選択あり: 設計目標 選択なし: 選択しない理由	結果	評価	非インプット項目の レベル
もっときれいに 環境負荷の低減 への負荷を低減します) (環境) 将来の世代に害を及ぼさない持続 可能な社会を目指す	A1 環境関連の法令・条例・協定・規則類を遵守する					
	A2 環境汚染となる有害物質を含有しない					
	A3 環境負荷の低い材料を使用する					
	A4 廃棄やリサイクルを考慮して部材・包材・製品等を設計する					
	A5 製造プロセスにおける有害物質の排出量を削減する					
	A6 製品寿命(耐久製品)や使用期限を延ばす					
もっと少なく 資源効率の向上 (資源を大切に使います) 投入資源の節減や生産性の向上 により、資源を無駄なく使う	B1 小型軽量化など、製品や包材類への資源投入量を削減する					
	B2 標準化・簡素化・多機能化など、部材や製品の必要数を削減する					
	B3 製造プロセスにおける補助材料や投入エネルギー量を低減する					
	B4 歩留まり向上など、製造プロセスや検査でのロス削減する					
	B5 保管や流通における省スペース化や効率化を推進する					
	B6 製品使用中のエネルギー消費を少なくする					
理念	指針	インプット採択 (採択は「○」記入)	選択あり: 設計目標 選択なし: 選択しない理由	結果	評価	非インプット項目の レベル
もっとやさしく	C1 使用物質や廃棄方法など、環境や安全に関する情報を開示する					
	C2					

現地へのフィードバック

現地での法規制に対応するため、環境推進室から現地法人および関連部署に対して情報を提供します。

現地へのフィードバック



ポリ塩化ビフェニル(PCB)の適正処理

テルモでは、高濃度のPCBを含有した機器はすべて取り外し、厳重に保管しています。すみやかに適正な処理ができるよう、中間貯蔵・環境安全事業株式会社に無害化処理の

早期登録を完了しています。また、PCBの微量混入の可能性のある機器についても調査を継続し、計画的に処理を行います。

テルモでは、生物多様性保全に取り組み、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に向けた活動を推進しています。

富士山森づくり — テルモ恵みの森

テルモは静岡県富士宮市に二つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などを生産しています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、台風で倒木などの被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種による植林を通して災害に強く、地下水の源となる自然林に再生させる活動「テルモ富士山森づくり」を行っています。

2011年度より、静岡県、森林所有者、テルモの3者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結し、富士宮市麓地区の「テルモ恵みの森」において植林や森林整備を実施しています。

2014年度からは協定範囲を1.65haから6.3haへ拡大し、新たな場所での活動も開始しました。



2014年度の取り組み

2014年度は、アソシエイトと家族、地域の中学生を合わせた約200名のボランティアが植林に参加し、新たな場所での植林を行いました。森に本来自生しているカエデ・ブナ・ヤマボウシなどの広葉樹350本を植えて、それぞれに鹿

の食害対策用シェルターを設置しました。また、植林後も下草刈りなどの森の手入れを実施し、年間を通じた森づくり活動を行いました。今後も地域とともに森づくり活動に取り組めます。



ボランティア参加メンバー



植林の様子

アソシエイトが自主的に取り組む「ECOチャレンジ」

アソシエイトと家族が、オフィスや家庭でエコ活動に挑戦する「ECOチャレンジ」を、毎年実施しています。

キャンペーンでは、参加者に具体的なエコ活動を記載したチャレンジシートを配布し、各自が自主的に取り組みます。また、参加したアソシエイトの取り組みをポイント化し、会社が「公益財団法人 オイスカ」のプログラムに寄付しています。2014年度は総勢4,362名が参加し、エコロジーの意識を家族とともに育みました。

事業所	所属部署	名前	7/19	7/28	8/4	8/11	8/18	8/25	9/1	9/8	9/15
チャレンジ項目			7/27	8/3	8/10	8/17	8/24	8/31	9/7	9/14	9/21
オフィス編	人がいないエリアや会議室の照明は消灯する										
	エレベーターの使用を控え階段を使う										
	コピーやプリントアウトは必要最低限にとどめる										
家庭編	冷房時の室温は28度を目安にする										
	テレビを見ないときは電源を切る										
	冷蔵庫の余分な開閉や詰め込みすぎはしない										
	洗濯やシャワーの時等、節水を心がける										
オリジナル項目 *上記以外にあれば記載ください!	エコバッグを持参しレジ袋をもらわない										
合計			ポイント! ●の合計数をご記入ください!								

チャレンジシート

寄付先プログラム

「子供の森」計画

子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球の緑化を推進することを目的としたプログラム。テルモからの寄付金は、フィリピンの子どもたちの環境教育や、苗木を植えて育てていく森づくり活動などに使用されています。



「子供の森」計画

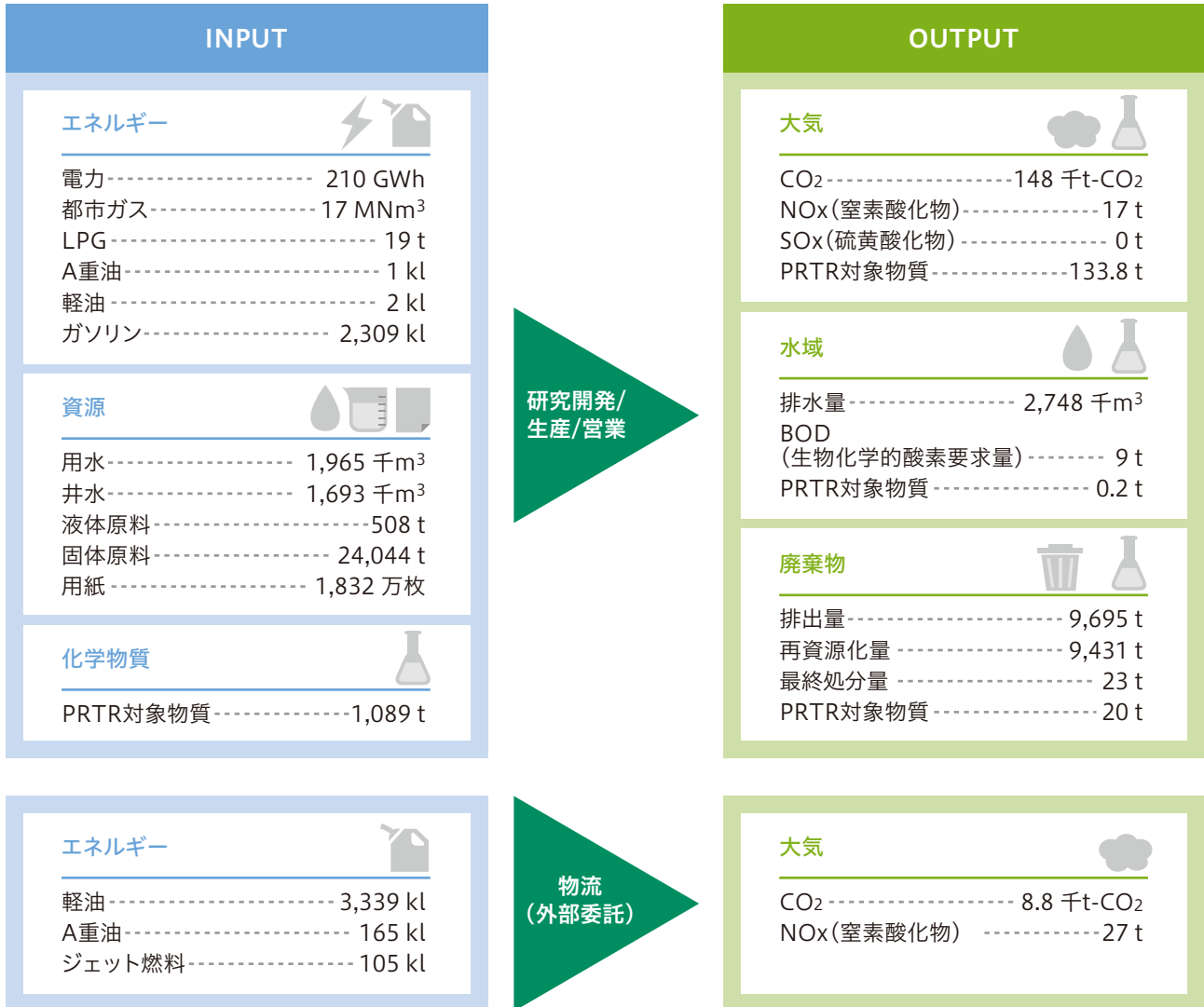
海岸林再生プロジェクト

海岸林は、飛砂防備や防風、津波に対する減衰機能など、地域の生活環境の保全に重要な役割を果たしています。東日本大震災の際の津波による海岸林の喪失によって、東北地方の沿岸部における塩害は日々深刻化しています。「海岸林再生プロジェクト」では、被害を受けた海岸林の再生に向け、種苗の生産拡大・植栽・育林を推進するとともに、農地回復や、被災地域での雇用創出を通じた地域振興に取り組んでいます。



海岸林再生プロジェクト

テルモの事業活動は、地球の資源を活用することで成り立っています。
エネルギーや原材料などの投入量、二酸化炭素・廃棄物などの排出量を把握し、
環境への負荷を低減していきます。



※対象:テルモ単体国内事業所

※電気のCO₂排出係数は2014年度の供給事業者の係数を使用

グリーン購入実績

(単位 数量:千個 金額:千円)

		全体	環境配慮購入	
本社・営業	数量	33	18	56%
	金額	49,099	33,643	69%
工場	数量	29	25	84%
	金額	72,906	60,304	83%

サイトデータ(生産事業所・研究開発拠点) 2014年度実績(国内)

事業所	所在地	CO ₂ 排出量 (千t)	水使用量 (千m ³)	廃棄物 排出量 (t)	特別管理 廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
富士宮工場	静岡県 富士宮市	55	1,850	3,306	17	3,285
愛鷹工場	静岡県 富士宮市	26	560	1,728	317	1,670
甲府工場	山梨県 中巨摩郡	57	1,183	4,360	31	4,234
研究開発センター	神奈川県 足柄上郡	7.5	71	213	60	160
テルモクリニカルサプライ株式会社	岐阜県 各務原市	0.8	8	38	1	29

サイトデータ(生産事業所・研究開発拠点) 2014年度実績(海外)

事業所	所在地	CO ₂ 排出量 (千t)	水使用量 (千m ³)	廃棄物 排出量 (t)	特別管理 廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
テルモメディカル社/TCVS社	アメリカ メリーランド州	15※1	79	479	61	137
TCVS社/テルモハート社	アメリカ ミシガン州	4※1	16	363	1	47
TCVS社	アメリカ マサチューセッツ州	1※1	1	203	0	112
マイクロベンション社	アメリカ カリフォルニア州	1	11	100	58	14
テルモBCT社	アメリカ コロラド州	18	62	1,840	9	1,597
マイクロベンション社	コスタリカ サンホセ市	0.2	11	23	12	11
テルモヨーロッパ社	ベルギー ルーバン	11※1	52	849	160	377
テルモヨーロッパ社UK工場	イギリス リバプール	0.2※1	0.5	207	0	173
バスケテック社	イギリス グラスゴー	2	13	141	4	41
テルモBCT社	イギリス ラーン	4	47	235	0	195
泰尔茂医療産品(杭州)有限公司	中国 浙江省	34	493	862	61	766
テルモフィリピンズ社	フィリピン ラグナ州	27	200	994	33	951
テルモペンポール社	インド ケララ州	8※1	37	682	0.3	673
テルモベトナム社	ベトナム ビンフック省	6※1	170	154	44	109

※TCVS社:テルモカーディオバスキュラーシステムズ社の略称

※廃棄物密度は、一般/産業廃棄物を0.2t/m³、有害廃棄物を1.0t/m³として算出しています。

※電気のCO₂排出係数は、供給事業者の係数を基に算出していますが、※1の事業所はIEA CO₂ Emissions From Fuel Combustion 2012より2005年の地域別の排出係数で算出しています。

EHS目標と実績

取り組み項目	2016年度自主目標(中期目標)	2014年度目標	2014年度評価	2015年度目標
EHSマネジメントシステムの構築	グループEHSMSをすべての国内生産拠点に導入/第三者認証取得の推進	グループEHSMSの適用範囲を甲府工場へ拡大	○	グループEHSMSの適用範囲を愛鷹工場へ拡大
	グループEHSMSの適応範囲を主要な海外生産拠点に拡大	グループEHSMSマニュアルのグローバル対応推進		グループEHSMSマニュアル・書類のグローバル対応
事故・災害リスクの低減、健康増進	死亡・重大労災ゼロ 労災発生件数をFY2013比で50%以上削減	死亡・重大労災ゼロ 労災発生件数を前年度より削減	△	死亡・重大労災ゼロ 労災発生件数10件/年以下(国内事業所社員・派遣社員) 定期健診受診率100%・2次健診受診率80%以上(国内事業所社員)
	重大環境事故のゼロ継続	環境事故・緊急事態対応手順の整備		環境事故・緊急事態対応手順の整備
環境と安全に配慮した商品・生産プロセスの開発	3製品以上Human×Eco商品を上市	Human×Eco商品/生産プロセスの開発計画を1つ以上具体化(国内各開発拠点)	○	Human×Eco商品/生産プロセスの開発計画を1つ以上具体化(国内各開発拠点)
	規制対象フロンを用いない生産技術に目処	脱フロン(HCFC-225)生産技術の事業所間連携の推進		フロン(HCFC-225)代替溶剤候補の具体化と事業所間共有(国内グループ)
エネルギー・資源の有効活用(CO ₂ 排出量の削減)	CO ₂ 排出量を連結売上高原単位で2005年度比30%削減(国内事業所、海外生産事業所) *長期目標: FY2025 50%削減	CO ₂ 排出量を製品売上高原単位で前年度比4%改善 エネルギーコストをBAU※比1%削減(テルモ単体国内生産事業所・研究所) ※BAU: Business As Usual 未対策時	○	CO ₂ 排出量を連結売上高原単位で前年度比1%削減(国内グループ・海外生産事業所) CO ₂ 排出量をTC製品売上高原単位で前年度比1%以上削減(国内事業所)
	廃棄物のリサイクル率を85%以上に向上(国内グループ、海外生産事業所)	廃棄物最終処分量を廃棄物等総排出量比0.5%未満(国内事業所)		廃棄物のリサイクル率を84%以上に向上(国内グループ・海外生産事業所) 廃棄物最終処分量を廃棄物等総排出量比0.5%以下(国内グループ)
化学物質の適正管理・排出量削減	化学物質管理体制の整備とガイドライン遵守	化学物質管理状況の確認とガイドライン作成(国内事業所)	○	化学物質管理ガイドラインの策定と運用開始(国内グループ)
	ジクロロメタンなど化学物質の排出量・敷地境界環境濃度の管理推進・有機溶剤取扱作業エリアの作業環境改善 -第3管理区分ゼロ(国内事業所)	ジクロロメタン排出量を年100トン未満/住宅地域と隣接する敷地境界におけるEOG環境濃度を4.3μg/m ³ 以下(国内事業所)		ジクロロメタン排出量を年100トン未満、住宅地域と隣接する敷地境界におけるEOG環境濃度を4.3μg/m ³ 以下(国内グループ) 有機溶剤取扱作業エリア第3管理区分の対策実施(国内グループ)
生物多様性の保全	NGOとの協働による生物多様性保全活動の推進・拡大	社内エコキャンペーンの実施と参加者数の拡大(国内事業所)	○	エコキャンペーンの対象事業所と参加者数の拡大(国内グループ)
	「富士山森づくり」活動継続と内容拡大・植林後のケアを含めた活動に拡大	「富士山森づくり」の実施と活動内容拡大		「テルモ恵みの森」の植林と保全活動を年間を通じて実施
EHSコミュニケーションの推進	アニュアルレポートの情報開示の質向上	「社会・環境への責任」をアニュアルレポートと統合し内容充実 -経済・社会・環境の情報統合	△	統合報告書の構成・内容を充実 -GRIガイドライン第4版への適応準備
	e-ラーニングを用いたEHS教育の体系構築(国内事業所)	e-ラーニングを用いたEHS教育の導入(国内事業所)		EHS基礎教育ツールの標準化 -e-ラーニングを用いた運用の開始(国内事業所)

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。

テルモ、TERUMO、テルモメディカルプラネックス、T-PAS、テルフュージョン、Human×Eco、ケモセーフ、F2ライト、ニコベリック、ソルデムはテルモ株式会社の登録商標です。



テルモ株式会社

東京オフィス

〒163-1450 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー

© テルモ株式会社 2015年10月